

佐賀県立博物館

年報

昭和45年度

No. 1

目 次

はじめに	
新館の発足と管理の状況	5
1. 新館の発足	5
(1) 落成開館式	5
(2) 新館建設に要した経費	10
(3) 新館の規模および施設	10
2. 博物館の沿革	13
3. 博物館の組織	15
4. 博物館協議会	15
5. 昭和45年度予算	16
6. 条例、規則	17
博物館事業の概況	22
企画展	22
常設展	32
観覧者数	40
講演会	40
博物館資料の概況	47
昭和45年度以前の資料	47
昭和45年度の委託、寄贈購入資料	53
観覧者の声	64
博物館日誌	65

は じ め に

開館初年度の年報を発行するにあたり、ごあいさつとお願いを申し上げます。

郷土の歴史と文化を物語る考古、歴史、民俗、美術工芸、自然史に関するもろもろの資料について深く調査研究を進めるとともに、それらの資料を豊富に収集し、整理し、保存し、かつ展示して、広く一般県民の利用に供することによって未来の産業・文化・生活を創造する学習の場を広めるといふ目的をもった新博物館の誕生は、わが佐賀県の教育文化史上特筆すべきことであつたと思います。

旧佐嘉城「三の丸」跡に新しく造成された城内公園のほぼ真ん中に位置する博物館の施設設備は、構想の斬新さと機能性の着実さにおいて、わが国建築界に新たな話題を提供しており、また、その収蔵する資料においても、「佐賀県文化館」および「佐賀県文化財収蔵庫」において、この20年来たくわえられてきた資料を引き継いだことと、新たに県内外諸賢各位の非常なお力添えのおかげで、早くも佐賀県ならではの幾つかの特色をもつものとして関係者から注目されているところであります。これらのことは、新博物館の前途を非常に明るくしており、ここに勤務する私達職員一同も仕事の上でのハリを強く感じているところであります。

とは申しますものの、開館してまだ半年を経たばかりのところであり、これからが内容の充実を本格的にはからねばならないときでありますから、何卒絶大なお支援とご指導を賜りまますよう切にお願い申し上げる次第であります。

この年報は、開館第一年度のものでありますので、開館までの経過の概要についてもいささか記しとどめることにしました。そのため、事業内容の報告がじゅうぶんでないきらいがありますが、次の年報からは、事業の内容を主にして報告したいと思っていますので、ご了承のほどをお願いいたします。

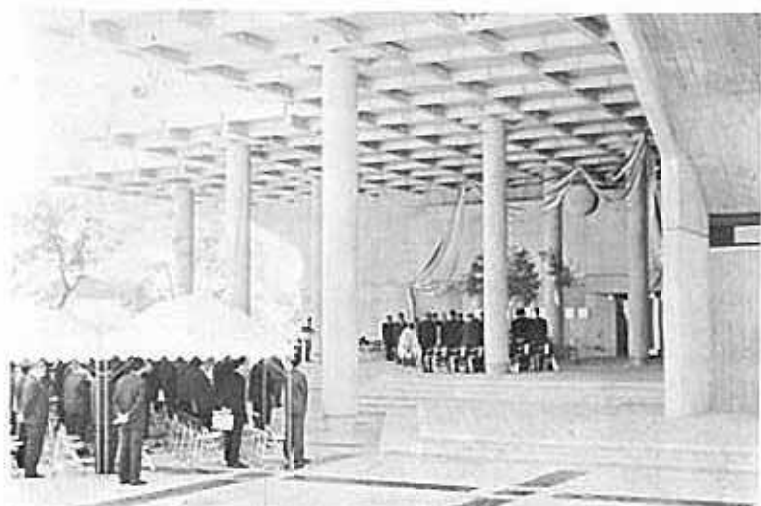
館 長 古 賀 秀 男



博 物 館 全 景

開館式風景

開館式全景



県知事挨拶



県知事のテープ切り

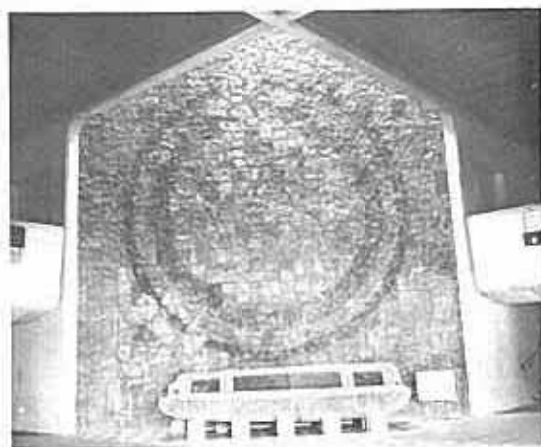




博物館の建設状況を視察する池田知事
(博物館屋上にて)



新館移転直後の博物館内を視察する県教育委員



ロビー



屋外展示場

新館の発足と管理の状況

1 新館の発足

(1) 落成開館式

場 所 佐賀県立博物館

日 時 昭和45年10月14日 10時

落成式式次第

- | | |
|-----------|---------------------------------|
| 1. 開式のことば | 県 教 育 長 |
| 2. 神 事 | |
| 3. 式 辞 | 県 知 事 |
| 4. あいさつ | 県 教 育 委 員 長 |
| 5. 工事経過報告 | 県 建 築 課 長 |
| 6. 感謝状贈呈 | 県 知 事 |
| 7. 祝 辞 | 文 部 大 臣
県 議 会 議 長
来 賓 代 表 |
| 8. 祝電披露 | 県 社 会 教 育 課 長 |
| 9. 閉式のことば | 県 教 育 長 |
| 10. はさみ入れ | 県 知 事 |

特別展観覧

佐賀県知事の式辞

本日ここに佐賀県立博物館の落成式を挙げるに当たりまして、県内各地はもとより遠路ご臨席をいただきました皆様に対しまして一言ごあいさつを申し上げます。

さき頃は、県総合運動場の竣工式を兼ねまして第二十三回県民体育大会を開催いたしました。その感激の未ださめやらぬ本日、この式典を迎えることができますことを県民の皆様と共に心からよろこび合いたいと存じます。

本県は、十余年来、後進県からの脱脚を旗じるしといたしまして、産業開発や民生の安定さらには文教の振興等県民の皆様とともに努力を続けて参ったのでございますが、お陰様でその成果も着々と実を結びつつありますことはまことにご同慶に堪えないところでございます。

顧みますと、文教関係施設の整備は、逐次実施してきたのでございますが、特に青少年教育を中心目標とした社会教育施設の整備につきましては、県立図書館、体育館、青年の家、総合運動場と相次いで整備して参りまして、今回、博物館の落成をみたわけでございます。

とりわけ県立博物館の建設につきましては、県民多年の要望でもありましたので、明治百年記念事業として、この地、ゆかりの旧佐嘉城三の丸跡に一昨年着工し、3ヵ年の継続事業として今日の完成を見るに至ったものでございます。

この博物館が、県民の皆様のご要望に沿い、県民文化の殿堂として、他の関連施設との協調の上に大いに活躍することを期待いたしているものでございます。

なお、この博物館は、過去に県立図書館や青年の家、ユースホステルなども手がけていただいた令名高い東京大学の内田先生と高橋第一工房代表殿に設計をご依頼申しあげたものでございますが、ご両名様には極めてご多忙の中をこころよくお引受けいただき、設計監督に心魂をかたむけていただいた次第でございます。また施工は県内外に名声を得ておられます松尾建設、住友建設をお願いいたしましたところ、その優秀な技術陣と近代工法により幾多の困難を克服され、よく設計の趣旨を生かし、今日仰ぎ見るとき斬新にして華麗な殿堂ができましたが、まさに70年代の博物館といたしましては、規模、構造共に西日本随一を誇り得るものと私は自負いたしております。

またこの博物館の周辺の環境は、ご覧のとおり現在工事中でございますが、都市公園事業で整備をいたしております、これが完成のあかつきには、最適な文教地区となり県民の皆様にご利用いただけることを確信いたしております。

このあと皆様にご観賞いただくことにいたしております桃山、江戸美術の代表的名作は、文化庁の格別のご援助によりまして、この白亜の殿堂に一ぱい展示することができましたが、明日からこの開館記念展を県民の皆様楽しんでいただくことができるのは私のこのうえもないよろこびでございます。

近世初期の日本人には、まことに気宇壮大な精神の持主が多かったように聞いておりますが、その自由にして闊達な精神をこれらの名作を通じて皆様ご感得いただければまことに幸いと存じます。

最後になりましたが、この博物館の建設事業に終始ご尽力いただいたかたがた落成記念の特別展開催につきましてご指導ご協力をいただきました皆様に対しまして心から感謝の意を表しますと共に今後における博物館活動の飛躍的な発展を祈念いたしまして私のあいさつといたします。

昭和45年10月14日

佐賀県知事

池田直

佐賀県教育委員長のあいさつ

佐賀平野に秋の気配が深まってまいりました今日、県内外からの多数の来賓をお迎えいたしまして、佐賀県立博物館の開館記念式典、引き続き文化庁後援のもとに宮内庁、国立博物館その他所蔵者のかたがたのご理解あるご協力をえまして、開館記念にふさわしい豪華な桃山、江戸美術名作展を催すことができますことを皆さまとともに喜び申し上げます。

明治百年記念事業の一つとして計画されましたこの博物館が足かけ三ヶ年の歳月と巨額の経費を投じて建設されましたことは、池田知事をはじめ県会議員各位、更には広く県民のかたがたの博物館建設に寄せられたご熱意の賜でありことを思い、深く感謝申し上げますとともに、この斬新にして堂々たる設計や施工に当られた関係者のみなみなならぬご努力に対しまして厚くお礼を申しあげる次第でございます。

博物館が建設されましたこの地は、古くは旧佐嘉城三の丸跡であり、また明治17年に創立されました佐賀県師範学校が置かれたところであり、戦後は佐賀大学教育学部が設けられていたところでありまして、明治、大正、昭和の3代にわたった本県文教の中心地に、文化の殿堂である博物館が新しく建設されましたことは、ひとしお意義深いものがあることを思い、感慨あつたなものを禁ずることができません。

本県の学校教育ならびに社会教育の分野におきましては、近來施設、内容ともに非常な充実を見るにいたっておりますが、このたび博物館の完成をみまして、本県の文化施設が一段と強化されましたことを、ひとしお喜ばしく感ずるところでございます。

近代的に整備されました環境の中に、天を突きそそり立つ白亜の殿堂、県立博物館こそは、伸びゆく本県の文化のシンボルでありまして、今後は計画的に内容の充実を図るとともに適正な管理運営につとめ県民の皆さまのご期待にこたえる所存でございます。

幕末における佐賀藩弘道館の教育が全国に群を抜いていたように、この博物館が全国に誇りうる文化施設であるよう努力すべく決意を新たにしているところでございますので、今後一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますがごあいさつといたします。

昭和45年10月14日 佐賀県教育委員会

委員長 小 松 満

文 部 大 臣 の 祝 辞

本日ここに佐賀県立博物館が完成し、めでたく落成の式典が挙行されるにあたり、ひとことお祝いのごとばを申しのべます。

佐賀県は遣唐使の古き時代から、わが国と諸外国との交流に大きな歴史的役割を果たしてきた地域として知られており、したがって県内には貴重な歴史資料、美術資料が豊富に保有されております。

このたび県民の要望に応え、これら多数の貴重な資料を広く一般に公開して県民の教養の向上、文化の発展に資するため、明治百年記念事業の一環として、佐嘉城内の一角に県立博物館が竣工しましたことは、まことに意義深いものがあります。

申すまでもなく、博物館は歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育文化の発展に寄与するきわめて重要な社会教育の施設であります。

とくに現在は、産業の急速な発展や経済社会の変ぼうに伴って生じがちないわゆる人間疎外の現象を防ぎ、人々に豊かな人間性を保ちうる社会環境の生涯を通じて新しい知識、技術や識見を身につける機会とを保障し、もって精神的にも物質的にも豊かな国民生活を築くことが特に肝要とされる時代となっています。

かかる時代の要請にかんがみ各層の人々がその余暇を活用し、わたくしどもの先輩が遺された貴重な文化を学び、今後のわが国の新しい文化の創造に参加して行くことを促進する上で博物館のもつ使命は重大であり、これに寄せられる期待はまことに大きなものがあります。

このときにあたり、当県においてこのような立派な博物館を新設されましたことは、わが国博物館の整備充実の上からみても、まことに力強い限りであります。

今後、この新らしき器にふさわしく、博物館資料のいっそうの充実をはかられ、当県の地方文化の発展向上に寄与されますことを期待して祝辞といたします。

昭和45年10月14日 文部大臣 坂 田 道 太
(文化庁文化財保護部長 内 山 正 代 読)

佐賀県議会議長の祝辞

芸術の秋を迎えた本日のよき日に、佐賀県立博物館の竣工落成式が挙行されますことは、まことに時機に適した意義深いものがあり、佐賀県議会を代表いたしまして、一言お祝いのことばを申し上げます。

かねて85万県民の念願でありました博物館が、明治百年事業の一環として、みごとに竣工いたしましたことを心からお慶び申し上げます。

ご承知のとおり、戦後4半世紀を経過した今日、世界の科学の進歩は急速なものがあり、人間の能力と電子組織の結合によって、月面への着陸を始め、あらゆる分野を開拓し、優れた機械文明の進展は人間一人一人のあり方、考え方にも大きな影響を及ぼしているのであります。

しかしながらその反面には科学、産業など急速に発展すればするほど、人々の心の中には人間自然の心のよりどころとして伝統ある古来の美術、名作にあこがれを感じ、これらを鑑賞し、心のうるおいを求めていることは申すまでもないところであります。

昨今の古典ブームや書画コットウ、刀剣鑑賞などが静かなブームをおこしているのも、その一例といえるのではないかと存じます。

幸い本県におきましては池田知事さんを始め、関係者のご努力によりまして、このようなみごとな博物館が本県に完成し、本県の芸術、文化水準の向上に大きく貢献し、さらには後世にいたるまで、その恩恵に浴するのでございますが、本県では何物にもかえがたい歴史的建物であります。

特にこの斬新な建築といい、設備、採光を始め周囲の環境とも全く申し分がなく、由緒深いここ佐賀城内の一角に県民文化の殿堂として、その偉容を誇り、城内公園に体育館、図書館とならび、本県の面目躍如たるものがあります。

また一方、地学、生物、考古、民俗などを通じ、本県の自然と人文を示す郷土史紹介の面からも県文化、教養を高める一大センターとして大いに活用されることと期待いたしている次第であります。

今回はすでに落成を記念し、桃山、江戸美術名作展が展示されており、その豊かな収蔵品と特色ある展示品に感嘆しておりますが、このうえともこの博物館が外観、環境にふさわしく内容の面でさらに充実したものになり、また、大いに活用されますよう切にお願いして止まない次第でございます。

終りに建設関係者皆様方のご労苦に深い敬意を表しまして、私のお祝いのことばと致します。

昭和45年10月14日

佐賀県議会議長 小 原 嘉 登 次

感謝状を授与されたものの氏名

設計者

内 田 祥 哉 東京大学工学部教授
 東京都杉並区下高井戸2の779
 高 橋 誠 一 株式会社第一工房代表取締役
 東京都港区南青山5丁目9番12-408

施工者

松 尾 文 雄 松尾建設株式会社社長
 佐賀市多布施1丁目4番地
 斉 藤 武 幸 住友建設株式会社社長
 東京都新宿区荒木13の4
 桜 田 久 東光電気株式会社社長
 松 井 実 三建設備株式会社社長

資料寄贈者

河 村 龍 夫 兵庫県芦屋市翠丘町4番12号
 山 下 朔 郎 大阪府池田市呉服町3の1
 日 下 八 光 東京都練馬区東大泉町820
 佐賀北部ロータリークラブ
 佐賀中央ライオンズクラブ
 佐賀薬がくれライオンズクラブ

(2) 新館建設に要した経費

博物館建設費年次別内訳 単位千円

	事業種別	事業費	年次別		
			43年度	44年度	45年度
継続事業	調査設計費	25,509	19,431	5,790	288
	工事費	493,426	93,757	342,910	56,759
	事務費	1,766	658	475	633
	小計	520,701	113,846	349,175	57,680
単年度事業	環境整備費	42,438	—	—	42,438
	初度調弁費	24,000	—	—	24,000
	小計	66,438	—	—	66,438
合 計		587,139	113,846	349,175	124,118

(3) 新館の規模および施設

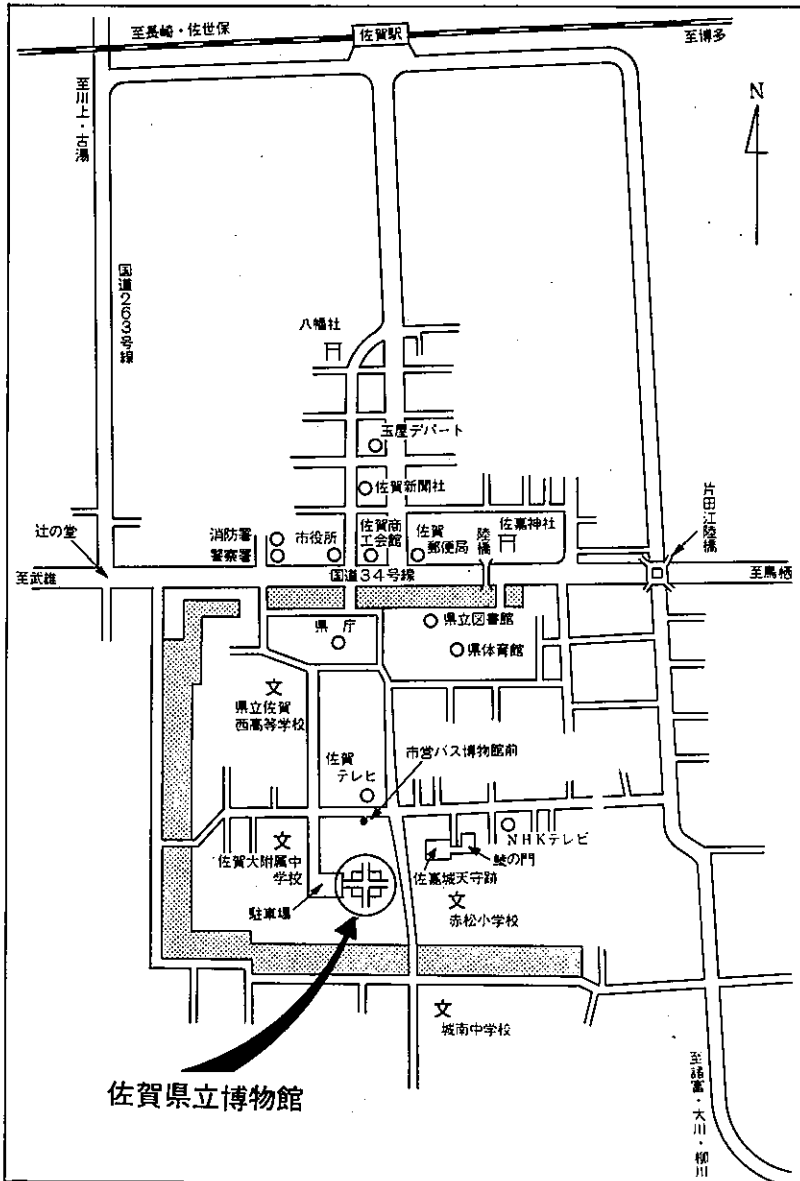
規 模

構 造 鉄筋コンクリート造 3階建
 規 模 敷地面積 30,962.0㎡ (公園を含む)
 建築面積 2,149.1㎡
 延床面積 4,638.0㎡

概要

ロビー (案内所、常設展受付) 349.5m ²	中展示室 136.0m ²	荷解場 86.0m ²
1号展示室 193.6m ²	研究室(ガス、水道つき) 66.0m ²	電気室 48.0m ²
2号展示室 352.0m ²	事務室 80.0m ²	ボイラー室 157.0m ²
3号展示室 484.0m ²	資料調査室 64.0m ²	食堂 60.0m ²
大展示室 523.5m ²	撮影暗室 24.0m ²	
	車庫 56.0m ²	

位置



交通機関 佐賀駅から市営バス市内右廻り 博物館前下車
 左廻り 博物館前下車
 各バス(昭和、祐徳、市営)で県庁前下車

南へ300m 徒歩12分

2、佐賀県立博物館の沿革

- 33年4月1日 佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。県立図書館の一隅に事務所をおく。
- 36年4月1日 中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置された。事務所の所在地は、従前のとおり。
- 37年4月17日 博物館法付則によって、文部大臣から「博物館相当施設」に指定される。
- 39年4月1日 鍋島報効会所有の旧徴古館の建物を借り受け、移転する。
- 40年12月28日 法改正に伴い「文部大臣の指定する博物館に相当する施設」として再び指定される。
- 41年4月1日 建物内部の整備をし、常設展示を開始する。
- 42年7月30日 佐賀県博物館施設連絡協議会が設けられ、事務局を本館内におく。
- 45年4月1日 佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正
博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。
- 45年6月1日 博物館法に基づき、佐賀県文化館協議会委員を発令

文化館の施設は老朽化し、しかも狭あいのため、十分な博物館活動および文化活動ができなかったため、近代的な独立施設の建設について県民各層から強く要望されていたことで、昭和36年来調査研究を重ね、41年度において調査費が計上され、本格的な建設促進の段階にはいった。

県立博物館は、明治百年記念事業として建設することになり、昭和42年度には東京大学工学部内田祥哉助教授と設計事務所第一工房に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から44年にわたる継続事業で建設されることになった。

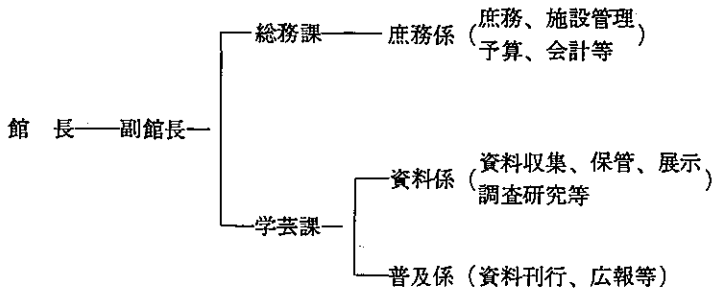
- 33年12月26日 建設工事着工
- 44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
委員長 古賀秀男（県立図書館長）
副委員長 永竹威（県文化館長）
同 松崎利彦（教育庁参事）
委員 池田武生（知事室長）外関係部課職員8名
- 44年1月23日 起工式
- 44年7月5日 佐賀県博物館開設準備委員長に教育庁参事古賀秀男（前県立図書館長）発令
- 45年4月1日 佐賀県文化館設置条例廃止
佐賀県立博物館設置条例公布
佐賀県教育庁組織規則改正、佐賀県教育庁博物館開設準備事務局を設置、事務局を旧文化館があった鍋島報効会所有の建物内におく。
局長 古賀秀男（前教育庁参事）
次長 松崎利彦（前教育庁参事）

総務課長	次長事務取扱			
庶務係長	西村正剛			(前県社会教育課)
庶務係	中村ヤヲ			(前県理科教育センター)
	吉田宣之			(前県文化館)
(兼務)	江口実			(県体育館)
業務課長	木下之治			(前県社会教育課主査)
資料係長	久保儀一			(前県文化館学芸課長)
資料係	手塚静雄			(前県教育研究所)
	堤清雄			(前県立佐賀農芸高等学校)
	木下巧			(前県文化館)
	森醇一郎			(前県立図書館)
	三輪英夫			(新採)

- 昭和45年5月1日 次長松崎利彦県国民健康保険課長に転出
次長に熊谷正門(前県社会教育課長補佐)、庶務係に小柳武久(前県防災課)発令
- 昭和45年6・29日 博物館開設準備事務局、新館へ移る。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館設置条例施行
教育庁組織規則改正、博物館開設準備事務局廃止
博物館登録
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館協議会条例を施行
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員15名を任命
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式
- 昭和45年10月15日～11月3日 記念「桃山江戸美術名作展」開催(1・2・3号展示室、中展示室)
- 昭和45年11月16日～11月29日 第20回県展を開催(全館)
- 昭和45年12月1日～12月6日 高等学校美術展開催(大展示室)
- 昭和45年12月10日～2月15日 常設展開催(1・2・3号展示室、大展示室)
- 昭和45年12月28日～46年1月5日 休館(年末・年始)
- 昭和46年1月15日～2月15日 幕末維新佐賀先哲資料展開催(中展示室)
- 昭和46年2月20日～ 開館記念「化石展」開催(1・2号展示室)なおこの期間中、3号展示室(歴史資料)
3月25日 よび大展示室(美術工芸資料)の常設展も併設した。
- 昭和46年3月30日～ 常設展開催(1・2・3号展示室、大展示室)

3、県立博物館の組織

博物館の組織と業務分掌



職員名簿 (46・3・31現在)

館長	古賀秀男	学芸課長(学芸員)	木下之治
副館長	熊谷正門	資料係長	久保儀市
総務課長(兼)	熊谷正門	事務職員	手塚静
庶務係長	西村正剛	"	(学芸員)木下巧
事務職員	中村ヤヲ	"	(学芸員)森醇一郎
"	吉田宣之	"	"三輪英善
事務補佐員	小柳武久	"(兼)	尾形善郎
技術"	吉岡喬二	普及係	
守衛	(45・8・17新採)坂井卓次	事務職員(学芸員)	堤清雄
守衛	(45・10・1新採)小石武彦	"	尾形善郎
用務員	(45・10・1新採)竹下仁三		(45・9・1多久市東部中学校より)
技術職員(兼)	(45・7・1新採)江口実		
技術職員(兼)	小森清		

博物館協議会

佐賀県立博物館協議会委員

定員 15名以内

任期 昭和45年7月16日付(2年間)

種別	氏名	年齢	現職名	住所
学社 校会 教育 関係	高添門司	72	佐賀県公民館連合会長	伊方里市大川町大川野 万
	進藤坦平	71	相知町教育長 佐賀県市町村教育長会連合会副会長	東松浦郡相知町大字牟田部坊中
	富崎清次	58	佐賀郡川副中学校長 佐賀県中学校長会理事	佐賀市赤松町2-5
	花島広次	51	佐賀県立神埼高等学校長	神埼郡神埼町本堀町裏
	星野英夫	80	祐徳博物館長	鹿島市内
	村山宅美	68	佐賀女子短期大学教授 佐賀県理科教育振興会長	佐賀市北川副町木原4本柳 160

学 識 経 験 者	内山良男	68	佐賀大学名誉教授 佐賀短期大学教授 佐賀県社会教育研究会長 佐賀県文化会議会長	佐賀市本庄町五本杉
	三好不二雄	66	佐賀大学名誉教授 佐賀女子短期大学教授	佐賀市赤松町11-11
	石本秀雄	61	佐賀大学教育学部教授 佐賀県造形教育振興会長	佐賀市松原町中の小路9-29
	谷口鉄雄	60	九州大学文学部教授	福岡県大宰府町白川1-27
	難波栄	60	佐賀新聞社論説委員長	佐賀市唐人町1丁目県営住宅
	岸田勉	55	佐賀大学教育学部教授	福岡県久留米市津福本町931の
	池田正人	48	佐賀県議会議員	佐賀郡川副町大字大井道627番
	岡崎敬	46	九州大学文学部教授	福岡県福岡市香雅御幸町合同宿 RC9-14
	米倉利昭	40	佐賀大学教育部部助教授	佐賀市本庄町大字五本杉 528の
	合計	15名		

協議会開催期日および議題

第1回

月日 昭和45年8月4日(火)
 議題 博物館の管理運営の基本方針について
 博物館資料の収集、保管、展示について
 その他博物館活動について

第2回

月日 昭和45年11月14日(土)
 議題 桃山江戸美術名作展をかえりみて
 昭和46年度事業について
 その他

第3回

月日 昭和46年3月6日(土)
 議題 昭和46年度事業について
 化石展観覧
 その他

5、昭和45年度歳出予算一覧 (単位 円)

科目	予算額
1. 博物館運営費	9,731,000円
管理運営費	9,302,000
会議及び職員研修費	247,000
博物館協議会費	182,000
2. 開館記念事業費	10,120,000
桃山・江戸美術名作展	8,434,000
化石展	1,686,000
3. 資料整備費	19,850,000
資料購入費	19,225,000

科目	予算額
資料整理費	625,000
4. 研究調査費	273,000
5. 常設展示費	424,000
計	40,398,000

6、条 例 規 則

佐賀県立博物館設置条例

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第8条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、佐賀県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、佐賀市に置く。

(補 則)

第3条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、佐賀県教育委員会に定める。

附 則

この条例は、知事が別に定める日から施行する。

佐賀県立博物館協議会条例

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条の規定に基づき、佐賀県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(委員の定数)

第2条 協議会の委員の定数は、15名とする。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 則)

第4条 この条例の施行に関し必要な事項は、佐賀県教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、知事が別に定める日から施行する。

佐賀県立博物館設置条例等の施行日を定める規則

次に掲げる条例の施行期日は、昭和45年7月1日とする

1. 佐賀県立博物館設置条例(昭和45年佐賀県条例第5号)
2. 佐賀県立博物館協議会条例(昭和45年佐賀県条例第6号)

佐賀県立博物館の管理に関する規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、佐賀県立博物館設置条例(昭和45年佐賀県条例第5号)第3条の規定に基づき、佐賀県博物館(以下「博物館」という。)の管理運営について必要な事項を定めるものとする。

(組 織)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(分掌事務)

第3条 各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- 一 人事、庶務及び会計に関すること。
- 二 文書の收受、発送、整理及び保存に関すること。
- 三 公印の管守に関すること。
- 四 博物館協議会に関すること。
- 五 財産の管理及び館内の取締りに関すること。

6 その他学芸課の所管に属しない事務に関する事。

学芸課

- 一 博物館の資料の収集、保管及び展示に関する事。
- 二 博物館資料の利用に対する説明、助言及び指導に関する事。
- 三 博物館資料の調査及び研究に関する事。
- 四 博物館資料の案内書、解説書、目録、年報、調査研究の報告書等の作成及び頒布に関する事。
- 五 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の主催及びその開催援助に関する事。
- 六 他の博物館との情報の交換及び博物館資料の相互貸借等に関する事。
- 七 他の教育機関等との協力及び援助に関する事。

(係)

第4条 課に係を置く。

2 係の名称は、次の表のとおりとする。

課名	係名
総務課	庶務係
学芸課	資料係・普及係

3 係の分掌事務は、課長が定める。

(職制)

第5条 博物館に館長及び副館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 副館長は、館長を助け、館務を整理し、館長不在のときは、その職務を代行する。

第6条 課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けて、その課の事務を掌理する。

第7条 係に係長を置く。

2 係長は、上司の命を受けて、その係の事務を掌理する。

(文書)

第8条 文書事務については、佐賀県教育庁文書規則（昭和31年佐賀県教育委員会規則第11号）を準用する。

(宿日直)

第9条 館長は、正規の勤務時間以外の時間において職員に宿日直を命じなければならない。

2 宿日直を命じられた者は、博物館の施設、設備及び書類等の保全、外部との連絡並びに文書の收受を行な（正規の勤務時間以外の管理）

第10条 館長は、正規の勤務時間以外の時間における博物館の施設設備の管理のため、その業務の一部を職員外の者に委託することができる。

(休暇)

第11条 職員（館長を除く。）の休暇は館長が承認する。ただし、次に掲げる休暇は、あらかじめ教育長の承認を受けなければならない。

- 一 公務災害による休暇
- 二 結核性疾患による休暇
- 三 病気休暇（引き続き10日以内の場合を除く。）
- 四 産前及び産後の休暇

2 館長の休暇は、教育長の承認を受けなければならない。

(旅行)

第12条 職員の旅行は、館長が命ずる。ただし、館長の3日をこえる旅行の場合は、あらかじめ教育長の承認を受けなければならない。

(通勤手当)

第13条 職員の通勤手当は、館長が認定する。

(警備防災の計画)

第14条 館長は、年度のはじめに、警備及び防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

(施設の使用)

5条 館長は、博物館の業務に支障のない範囲内において、大展示室、中展示室等の施設を博物館事業に関係りある行事のために使用させることができる。

開館時間)

6条 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は必要があると認めるときは、これを変更することができる。

休館日)

7条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

一 年始1月1日から1月4日まで

二 月曜日

三 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する日の翌日

四 年末 12月28日から12月31日まで

館長は、前項の規定にかかわらず、必要があると認めるときは、臨時に開館又は休館することができる。(入館できない者)

18条 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館長が適当でないと認める者は、入館することができない。(弁償)

19条 観覧者又は使用者が、博物館資料又は設備を亡失し、破損し若しくは汚損したときは、館長の指示に従い現品又は相当の代価をもって弁償しなければならない。

補則)

20条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理運営に関し必要な事項については、館長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和45年7月1日から施行する。ただし、第15条から第19条までの規定は、昭和45年10月15日から施行する。

佐賀県立博物館協議会条例施行規則

(会 議)

1条 佐賀県立博物館協議会(以下「協議会」という。)の会議は、定例会議及び臨時会議とする。

常例会議は、前項の定例会議のほか、必要がある場合に招集する。

(会議の招集)

2条 会議は館長が招集する。

(委員長及び副委員長)

3条 協議会は、委員の中から委員長、副委員長各一名を選挙しなければならない。

委員長は、会議を主宰する。

副委員長は、委員長を助け、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

附 則

この規則は、昭和45年7月1日から施行する。

佐賀県立博物館観覧料条例

(趣 旨)

1条 佐賀県立博物館(以下「博物館」という。)の観覧料については、この条例の定めるところによる。

(観覧料)

2条 博物館に入館し展示している資料を観覧しようとする者は、別表に掲げる額の観覧料を同表に掲げる納期までに納付しなければならない。

3条 博物館が特別に展示する資料を観覧しようとする者は、前項の規定にかかわらず、500円以内で知事が別に定める額の観覧料を入館の際に納付しなければならない。

(観覧料の免除)

4条 次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を免除する。

一 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第78号）第2条に規定する成人の日、こどもの日及び文化の日に入館する者（博物館が特別に展示する資料を観覧するために入館する者を除く。）

二 博物館に資料を寄贈し、若しくは寄託している者は博物館の行なう展示会に資料を出品している者

三 前2号に掲げる者のほか、知事が特に必要と認める者

（観覧料の還付）

第4条 既納の観覧料は、還付しない。ただし、資料を観覧しようとする者の責めによらないで、観覧することができなくなった場合は、観覧料の全部または一部を還付する。

（補 則）

第5条 この条例に定めるもののほか、観覧料に関し必要な事項については、知事が別に定める。

附 則

この条例は、昭和45年10月15日から施行する。

リ 表

区 分		観 覧 料 (1人につき)	納 期
一回観覧する場合	個人で観覧するとき	大 人 50円 大学生、高等学校生徒等 30円 中学校生徒、小学校児童等 20円	入 館 の 際
	二十人以上の団体で観覧するとき	大 人 30円 大学生、高等学校生徒等 20円 中学校生徒、小学校児童等 10円	入 館 の 際
随時観覧する場合	一年を通じて	大 人 500円 大学生、高等学校生徒等 300円 中学校生徒、小学校児童等 200円	一年を通じて随時観覧することができる観覧券を購入する際

- (注) 1 大人とは、満18歳以上の者（次項に該当する者を除く。）をいう。
 2 大学生、高等学校生徒等とは、学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する高等学校（同法第72条第2項の規定による盲学校、聾学校および養護学校の高等部を含む。）、大学および高等専門学校ならびに同法第83条第1項に規定する各種学校ならびに青年学級振興法（昭和28年法律第211号）第2条に規定する青年学級に在籍する学生、生徒、学級生その他満15歳以上18歳未満の者をいう。
 3 中学校生徒、小学校児童等とは、学校教育法第1条に規定する小学校（同法第72条第1項の規定による盲学校、聾学校および養護学校の小学部を含む。）および中学校（同項の規定による盲学校、聾学校および養護学校の中学部を含む。）に在籍する児童、生徒その他満6歳以上15歳未満の者をいう。

佐賀県立博物館観覧料規則

（趣 旨）

第1条 この規則は、佐賀県立博物館観覧料条例（昭和45年佐賀県条例第44号。以下「条例」という。）第5条及び佐賀県立博物館の観覧料に関し必要な事項を定める権限を委任する規則（昭和45年佐賀県規則第54号）の規定により、佐賀県立博物館（以下「博物館」という。）の観覧料について必要な事項を定めるものとする。

（団体観覧料又は随時観覧料の納付申込み）

第2条 博物館に入館し展示している資料を20人以上の団体に観覧しようとする場合の観覧料を条例第2条第1項の規定により納付しようとするときは、その団体の責任者は、あらかじめ団体観覧申込書（別記様式第1号）を博物館長に提出しなければならない。

1年を通じて随時観覧するための観覧料を条例第2条第1項の規定により納付しようとする者は、あらかじめ随時観覧券申込書（別記様式第2号）を博物館長に提出しなければならない。

（観覧料の納付及び観覧券）

第3条 条例第2条第1項の規定により観覧料を納付した者には、領収書にかえて観覧券を交付する。

前項の規定により交付する観覧券の種類、様式及び色分けは、次のとおりとする。

区 分		種 類	様 式	色 分 け	
1 回観覧 する場合	個人で観覧するとき	個人観覧券	別記様式第3号	大 人	赤 色
				大学生、高等学校生徒等	青 色
				中学校生徒、小学校児童等	黄 色
	20人以上の団体で観覧するとき	団体観覧券	別記様式第4号		白 色
1年を通じて随時観覧する場合		随時観覧券	別記様式第5号	大 人	紫 色
				大学生、高等学校生徒等	緑 色
				中学校生徒、小学校児童等	茶 色

条例第2条第2項の規定により観覧料を納付した者には、領収書にかえて別に定める観覧券を交付する。
(優待券)

1条 条例第3条第2号及び第3号の規定により観覧料を免除された者には、優待券(別記様式第6号)を交付することがある。

附 則

この規則は、昭和45年10月15日から施行する。(様式は省略)

佐賀県行政財産使用料条例等の取扱いについて

地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第3項及び佐賀県立博物館の管理に関する規則(昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号)第15条の規程に基き、佐賀県立博物館の大展示室及び中展示室の使用を許可する場
の事務手続き及び使用料については佐賀県行政財産使用料条例(昭和39年佐賀県条例第33号)及び佐賀県公有
産規則(昭和40年佐賀県規則第6号)を適用し、関係条項の取扱いは下記のとおりとする。

記

大展示室及び中展示室の一時使用許可の手続きについては、佐賀県公有財産規則第20条の規定によることとする。
前項の許可による使用料の額は、佐賀県行政財産使用料条例の別表中「講堂、体育館及びこれらに類するもの」に該当するものとしてその額を定めるが、この場合、昭和39年12月17日付管第.642号の総務部長通知による定めにかかわらず、実情に即して下表によることとする。

名称、構造等	面 積	期 間	使 用 料	備 考
大展示室	523.5㎡	4時間	1,500円	
中展示室	136.0㎡	4時間	500円	

前項の使用料の減免について佐賀県行政財産使用料条例第5条を適用する場合その取扱いについては、前項の
総務部長通知の運用によることとする。

大展示室及び中展示室を使用させるさいの光熱水費等については、前項の総務部長通知の取扱いによること
とし、なお光熱水費等の徴収額は、下表のとおりとする。

区 分	大展示室	中展示室	備 考
冷暖房しない場合	310円	70円	1時間当り
冷 暖 の 場 合	840円	140円	〃
暖 房 の 場 合	590円	130円	〃

佐賀県立博物館観覧料の取扱いについて

佐賀県立博物館観覧料条例(昭和45年佐賀県条例第44号)第3条第3号に規定する観覧料の免除対象者につい
ては、個々の事例により検討されることになるが、下記の者については、佐賀県内の学校に限り原則として団体
料の免除を認める方針である。

この場合、団体の人員が、条例別表に規定する20人を下る場合も団体とみなすこととする。

記

学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校、養護学校
児童、生徒で、当該学校の教職員が引率指導するもの。

博物館事業の概況について

企画展

開館記念・桃山江戸美術名作展

主催 佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

後援 文化庁

期間 昭和45年10月15日～11月3日

開館記念事業としては、当初からいくつかの企画がなされ、とりわけ特別展開催については最も力が注がれてきた。

特別展の候補としてあげられた企画は、そのいずれもが広く県民一般に公開するにふさわしい意義を十分持っていたのであるが、最終的には、表記の「桃山江戸美術名作展」と「県展」および「化石展」に決定された。

その実際上の準備に取りかかったのは、44年7月からで、以来45年10月開館まで1年3ヶ月の準備期間を要しており、その意味からすれば、決して即席の展観をねらったものではなかったといえるのであるが、なにぶんはじめての試みでもあり、それにいわゆる一流品を1点でも多く、県民に公開したいという秘かな願いを抱いていたため、開館まで相当の迂余曲折を経ている。

勿論、文化庁をはじめ東博京博の全面的な指導、助言、および所有者各位の心からの協力がなかったならば、目録にみるような壮大な景観は、ほとんど望み得なかったであろう。

作品の選定にあたっては、一応、桃山時代から江戸中期までとの時代区分の中で、絵画、漆芸、陶芸、刀剣の各部門にわたり、それぞれこの時代を代表すると思われる優品をリストにあげ、順次交渉にあたった。

この過程においても、各界の専門家の方々の意見を十分取り入れたことはいうまでもないが、結果的には、いくつかの例外的な作品を除けば、当館の所期の目的以上の素晴らしい作品ばかりが集まったといえる。

御物3点、国宝3点、重要文化財19点、重要美術品5点、県重要文化財3点を含む、まことに開館を飾るにふさわしい展観であった。

このように貴重な作品の取扱いについては、当館が最も注意を払った点であり、展示、ならびに撤去に際しては、東博、京博の指導を受け、作品の輸送中は、各県警の警備車の労をわずらわした。

勿論、期間中、温湿度の調製、ならびに警備態勢に全力を注いだことはいうまでもない。

このため130点に及ぶ貴重な作品を、無事所有者の方々へ返納できたのは、何よりの喜びであった。

一方、期間中の入場者数は22,700名を数え、当館の立地条件や本県の実業愛好者の人口等からすれば、まず成功と考えられよう。

また観覧者の感想も大変よく、そのマナーも立派であった点は、今後の当博物館の将来のために喜ばしいことであった。

出品目録

絵画	品名	作者	種別	所蔵
狩野派	1 御物 唐獅子図屏風	狩野永徳筆	六曲一隻	宮内庁
	2 帝鑑図屏風	狩野永徳筆	六曲一双	
	3 重文 車争図屏風	狩野山楽筆	四曲一隻	東京国立博物館
	4 重文 梅に山鳥図襖絵	伝狩野山楽筆	四面	京都妙心寺天球院
	5 重文 桜花雉子図襖絵	狩野貞信筆	四面	名古屋市
	6 重文 松楓禽鳥図襖絵	狩野派(寛永頃)	四面	"
	7 御物 唐獅子図屏風	狩野常信筆	六曲一隻	宮内庁
	長谷川派			
	8 牧馬図屏風	長谷川信春筆	六曲一双	東京国立博物館
	9 国宝 松に草花図屏風	長谷川等伯筆	二曲一隻	京都智積院
10 重文 枯木猿猴図	長谷川等伯筆	双幅	京都妙心寺竜泉庵	

11	山水人物図衝立	長谷川等伯筆	一對	京都	妙心寺本坊
海北派					
12	重文 琴棋書画図屏風	海北友松筆	六曲一双	東京	国立博物館
13	御物 網干図屏風	海北友松筆	六曲一双	宮内庁	
雲谷派					
14	重文 梅に鴉図襖絵	伝雲谷等顔筆	六面	京都	国立博物館
15	山水群馬図屏風	雲谷等顔筆	六曲一双	京都	国立博物館
16	山水人物図襖絵	雲谷等顔筆	六面	京都	東福寺普門院
土佐派					
17	源氏物語図帖	伝土佐光吉筆	二帖	京都	国立博物館
18	重美 粟穂鶏図屏風	土佐光起筆	八曲一隻		
風俗画					
19	重文 洛中洛外図屏風		六曲一双	文化庁	
20	洛中洛外図屏風		六曲一双		
21	国宝 彦根屏風		六面		
22	重文 舞踊図屏風		六曲一隻	京都市	
23	誰方袖図屏風		六曲一双	東京	根津美術館
24	西洋風俗図屏風		六曲一双	神戸市	立南蛮美術館
25	南蛮人行列図屏風		六曲一隻		"
琳派					
26	色紙帖	本阿弥光悦筆	一帖	東京	五島美術館
27	鹿図和歌卷断簡	本阿弥光悦筆 依屋宗達下絵	一幅	東京	五島美術館
28	国宝 蓮池水禽図	依屋宗達筆	一幅	京都	国立博物館
29	重文 牛図	依屋宗達筆	双幅	京都	頂妙寺
30	伊勢物語色紙	依屋宗達筆	一枚	東京	サントリ一美術館
31	伊勢物語扇面	依屋宗達筆	一幅		
32	保元平治物語絵扇面	依屋宗達筆	四面		
33	雲竜図	依屋宗達筆	一幅	東京	国立博物館
34	軍鶏図	伊年筆	一幅		
35	業平東下り図	尾形光琳筆	一幅	東京	五島美術館
36	竜田川図団扇	尾形光琳筆	一幅	東京	五島美術館
37	重美 秋草図屏風	尾形光琳筆	二曲一双	東京	サントリ一美術館
38	草花図大色紙	尾形光琳筆	十七枚		
芸					
39	重文 蒔絵調度類の内	懸盤		京都	高台寺
40	"	湯桶		"	
41	"	飯器 (杓子付き)		"	
42	"	銚子		"	
43	芒桐紋蒔絵箆笥			東京	サントリ一美術館
44	秋草蒔絵鏡台			"	
45	桜蒔絵硯箱			"	
46	秋草蒔絵德利			京都	国立博物館
47	松に橋縞模様蒔絵重箱			大阪	南蛮文化館
48	萬蒔絵聖餅箱		"		
49	楓橋蒔絵螺鈿箆笥			"	
50	南蛮人蒔絵螺鈿鞍			"	
51	重文 芦穂蒔絵鞍鐙			東京	国立博物館
52	秋草蒔絵文台			京都	妙法院
53	藤棚蒔絵手箆笥			東京	国立博物館
54	初音蒔絵手箱	伝長重作		"	

55	扇面業平蒔絵硯箱	尾形光琳作	東京 根津美術館
56	桐石疊模様小袖		東京 国立博物館
57	叉手網模様小袖		〃
58	敷瓦に菊秋草模様唐織		〃
59	薄菊蝶模様唐織		〃
60	紅白段雪持芭蕉文縫箔		岡山 美術館
61	重文 織箔菊橋文		〃
62	重文 紅白緋切菊桐文段替唐織		〃
63	備前 火だすき徳利		東京 出光美術館
64	〃 矢筈口耳付水指		岡山 美術館
65	〃 火だすき茶入 銘 雷神		〃
66	〃 耳付葉茶壺		
67	信楽 茶碗		東京 出光美術館
68	〃 耳付葉茶壺	野々村仁清作	
69	鼠志野茶碗 銘 峯紅葉		東京 五島美術館
70	鼠志野柳文鉢		東京 サントリー美術館
71	志野水指		東京 根津美術館
72	織部草花文耳付鉢		東京 出光美術館
73	重文 織部角鉢		
74	赤染茶碗 銘 夕暮	長次郎作	東京 五島美術館
75	黒染茶碗 銘 七里	本阿弥光悦作	〃
76	重文 色絵山寺文茶壺	野々村仁清作	東京 根津美術館
77	重文 色絵梅月文茶壺	野々村仁清作	東京 国立博物館
78	色絵菊流水文角皿	尾形乾山作	
79	萩茶碗		
80	萩茶碗		
81	唐津斑釉茶碗		
82	唐津奥高麗茶碗 銘 閑窓		福岡 田中丸コレクション
83	唐津奥高麗茶碗 銘 秋夜		東京 出光美術館
84	斑唐津水指		福岡 田中丸コレクション
85	絵唐津柿文三ツ耳付壺		東京 出光美術館
86	絵唐津唐草文水指		〃
87	絵唐津ぐりぐり文碗		〃
88	絵唐津松絵大平鉢		東京 出光美術館
89	上野斑白緑釉水指		福岡 田中丸コレクション
90	高取 指描き文壺		
91	〃 水指		福岡 田中丸コレクション
92	染付ぶどうつる草文鉢	初期伊万里	佐賀 有田陶磁美術館
93	青磁染付鷺文角皿	〃	
94	銙釉染付兎文鉢	〃	
95	重文 色絵花鳥文壺	柿右衛門	
96	色絵藤文燭台	〃	福岡 田中丸コレクション
97	色絵草花文壺	〃	
98	色絵人物花鳥図大壺	〃	岡山 美術館
99	色絵菊水文蓋付鉢	〃	東京 国立博物館
100	色絵婦人像	〃	
101	色絵風俗図大壺	古伊万里	福岡 田中丸コレクション
102	色絵椿文大徳利	〃	

103		色絵草花山水絵三方割徳利	"	
104	佐賀県重文	陶彫色絵狛犬像	"	佐賀 有田陶磁美術館
105	重文	色絵竹吹々鳥文皿	古九谷	東京国立博物館
106	石川県重文	色絵鶺鴒草花図平鉢	"	石川県美術館
107		色絵石畳文平鉢	"	"
108		色絵山水図平鉢	"	
109		色絵柳につばめ図平皿	色鍋島	
110		色絵青海波地文萩紅葉図皿	"	福岡 田中丸コレクション
111		色絵麻型輪つなぎ文台鉢	"	
112		色絵七宝地文唐草花文皿	"	
113		色絵笹文高台鉢	"	
114		色絵南天図皿	"	
115	刀 銘	肥前国忠吉 慶長5年8月吉日		東京国立博物館
116	"	肥前国忠吉南無観世音菩薩		東京国立博物館
117	"	肥前国住近江大掾藤原忠広		
118	"	肥前国住陸奥守忠吉		
119	重美	"	繁慶	
120	重美	"	和州手搔住重国於駿府造之	
121	"	"	以南蛮鉄於武州江戸越前康 継本多飛驒守所有内かさね胴及 度々末世剣是也	
122	"	"	津田越前守助広延宝 $\frac{2}{2}$ 年2月日	
123	"	"	長曾禰興里入道虎徹	
124	"	"	家光將軍洛中賜5千貫目 以銀以那波宗旦求伊豫掾源宗次 作是寛永11年7月吉日	
125	重美	"	藤原国広	
126	"	"	山城大掾藤原国包 寛永9年2月日	
127	短 刀 銘	"	肥州住忠吉此忠埋忠 明寿弟子	
128	"	"	山城国西陣住人埋明寿 慶長13年9月3日	
129	佐賀県重文	"	肥前国藤原忠広寛永8年8月日	佐賀 佐 嘉 神 社

第20回 佐賀県美術展覧会（県展）

主催 佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

期間 昭和45年11月16日～11月29日

20回目を迎えた県展は、新設の県立博物館開館記念事業の一環として45年11月16日から同29日までの2週間、博物館で開かれた。

1年どおり7部門、971点の出品の中から347点の入選作が選ばれ、他に招待出品41点、審査員出品5点を数都合393点にのぼる多数の作品が、全館を使って展示された。

選作の内訳は、第1部日本画16点、第2部洋画89点、第3部彫塑12点、第4部工芸48点、第5部書59点、第6部写真78点、第7部宣伝美術45点となっている。

お、この入選作の中には、県知事賞をはじめ、63点の授賞作と、15点の佳作が含まれている。

一般的に出品数はやや少なかったが、質的な向上がみられたのが、今年度の大きな特徴であり、今後の県展運営上で喜ばしいことといえる。入場者数は18,000名であった。

化石展

主催 佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

後援 国立科学博物館

期間 昭和46年2月20日～3月25日

開館記念特別行事の一環として、日本列島が、大陸と陸つづきであった時代からの、地球の歴史と生物進化の跡を、広く県民に紹介するため、この化石展を計画した。とくに学校の理科教育では、十分に準備し、理解されにくい「生物進化」の教材単元の補充の意味もかねて、この展示会の構想を立案したのである。化石の出品は、はじめ国立科学博物館、山口県立山口博物館、秋吉台科学博物館、山口県立大嶺高等学校、九州大学理学部、鹿児島県立博物館、鹿児島県立文化センター、長崎県壱岐郷土館や、県内では化石を所有する小学校、中学校や杵知町役場、相知中学校3年青木隆弘君、伊万里市大川町立川鉦業所、唐津市神集島高崎国久氏などからの出品を予定していたが、その後佐賀大学、佐賀北高校、佐賀市井原潤次郎氏、唐津市与猶梅雄氏、小城郡三日月町村岡英二氏などから、寄贈や協力出品などをいただいた。

化石展は、化石だけの羅列では無味乾燥である。地球の創成と生物の進化を、学問的に解説するためには、立体的、空想的なパネル効果をねらう必要があると思われるので、地質時代の背景パネル（カンブリア紀の海中図、石炭紀の水辺図、中生代の陸上図、中生代の海中図、第三紀の水辺図、第四紀の森林図）のほかに生物系統樹、脊椎動物諸綱間の進化図、頭足類の進化図、象の進化図、化石の定義、県内地質図、県内化石産地図などを、古生物学的専門書の基礎に立って、作製し準備した。

その一方においては、この展示会の内容が学校教育の教材として、利用され活用されるよう、三日間にわたって小、中、高校の理科担当者に集まってもらって、見学のための説明会を開催した。その結果は、出席された学校には理解されたと思われ、年度末の学校行事や、学校団体見学に要する経費などの困難点もあったと思われるが、近い学校は学年単位の団体見学、遠い地域の学校からは同好者のクラブ集団の見学という形であらわれた。

展示場内の展示順序は、原生代からはじめて古生代、中生代、新生代第三紀、新生代第四紀と、地質時代の年代順に配列したが、その時代配列の中にも、たとえば、オキナエビは古生代二疊紀の化石と、第三紀地層産のオキナエビスの化石の仲間、それに現生のベニオキナエビスの貝殻をならべ、古い時代の化石を現生のものと比較し、展示して、化石を身近いものであるということにつとめた。また古生代のリンギュレラは、有明海に特産するシャミセンガイ（方言、メカジャー）と関連づけ、三葉虫はカプトガニに類縁関係があることを示し、ウミユリの化石と現生の標本、サンゴの化石と、現生のサンゴ類の標本を並列して展示した。このほか「石炭紀」のパネルの前にシギリリア、レピトデンドロン、カラミテス、レプトプレウムなどの化石は、次の時代の中生代三疊紀の山口県大嶺炭田産のシダ植物、イチョウ類、トクサ類、ナギ類の大型化石とともに、その時代を説明するのに十分な資料であった。

中生代の陸上は展示場の入口にあるタイラノザウルスの生態模型で代表されるように、恐竜の時代である。山口県立山口博物館から借用した「中生代の陸上」背景パネルで、あらゆる中生代の爬虫類を説明し、中生代の化石は主に「国立科学博物館と九州大学から出陳してもらい、アンモナイト、トリゴニヤ、イノセラムスの化石によって、海中の模様を解説し、さらに相知中学3年青木隆弘君が採集したオオムガイを加えて、軟体動物、頭足類を、体系つけた展示にすることができた。

新生代になると県内産の化石も多い。二枚貝、巻貝、ウニ、サメ、カメをはじめ植物はメタセコイヤ、ブナ、ヤナギ、クリ、シュロや、珪化木のみごとなものがある。国立科学博物館から出陳されたパレオパラドキシア頭部模型、エピオルニスの巨大な卵、両生類へ移行する現生の肺魚、シーラカンス、ラチメリアの模型などは異彩を放つものであった。

第四紀は哺乳類の時代である。秋吉台科学博物館が、瀬戸内海から収集したクジラの脊椎三個をはじめ、マンモスの臼歯と牙、唐津市神集島ではじめて採集されたナウマンゾウの臼歯、国立科学博物館より出陳された象の頭部の変化模型と、象の進化系統パネル、古代牛（バイソン）の頭部化石、秋吉台の洞穴から出土した微小脊椎動物化石塊から採取した、微小脊椎動物骨化石の分類標本などによって、哺乳類の進化を説明した。第四紀の時代背景パネルは、人とマンモスであるが、第四紀洪積世は人類の時代へと、化石を人の時代への関連づけの一資料である。

このほかに秋吉台の科学博物館から提供いただいたフズリナの薄片と研磨板によって、古生代のフズリナの構造と進化を説明することができた。また珍しいカメの化石のうち、伊万里市大川町にあった大日鉦業立川鉦業所の山下勝章氏が採集した、小型の陸生カメの化石は *Graptemys ? yamashitai* と命名された新種で、立川鉦業所内（地下 360m）相知層群中部芳の谷層のト1mの頁岩中から産したもので、他の2点のカメの化石とともに注目されるものであった。

さらに国立科学博物館の藤山氏のご協力によって、魚類の化石がよく集り、岐郷土館、秋吉台科学博物館、賀市井原潤次郎氏、相知中学青木君などの出品を加え、15点を系統的に展示することができた。

とにかく自然科学の分野でも古生物学という専門分野にある「化石展」の企画、立案には、終始佐賀大学教育学部西田民雄講師にご協力いただき、飾付には国立科学博物館地学研究部第一研究室浅間一男室長と西田講師の援、指導をうけることができた。

2月20日から3月25日まで、県内でははじめての自然科学関係の企画展で、1万名を上回る観覧者があったことは、今後も考えられるであろうこの種の展示会のための試金石になった。なお、この化石展をとおして、県内人々に、いままでは野山に忘れざられ、道傍に捨てざられていた一塊の石についても、科学する気持がおこり、料として保存し、保護する気運が醸成されることを期待する。

出 品 目 録

国立科学博物館

品名	科名	時代
石 灰 藻 類)	コ レ ニ ア	原 古 代
腕 足 類)	リ ン ギ ユ レ ラ	古 生 代
頭 足 類)	ア ル メ ノ セ ラ ス	"
分 裂 藻 類)	ギ ル バ ネ ラ	"
頭 足 類、直 角 石)	オ ル ソ セ ラ ス	"
蜂巢サンゴ、床板サンゴ)	フ ア ボ シ テ ス	"
")	ハ リ サ イ テ ス	"
腕 足 類)	プ ロ ダ ク タ ス	"
三 葉 虫)	フ ア コ プ ス	"
甲 胃 魚)	コ ッ コ ス テ ウ ス	"
ヒカゲノカツラ類) 植物	レ プ ト フ レ ウ ム	"
ウ ミ ユ リ)	ウ ッ ド ク リ ヌ ス	"
ウ ミ ツ ボ ミ 類)	ミ オ シ ダ リ ス の ト ゲ	"
裸子コルダイト類) 植物	ペ ン ト レ ミ テ ス	"
鱗 木や封印木の地下茎) "	コ ル ダ イ テ ス	"
封 印 木) "	ス テ イ グ マ リ ヤ	"
鱗 木) "	シ ギ ラ リ ヤ	"
蘆 葦) 植物	レ ピ ド デ ン ド ロ ン	"
斧 足 類)	カ ラ ミ テ ス	中 生 代
")	ダ オ ネ ラ	"
ア ン モ ナ イ ト)	エ ン ト モ ノ チ ス	"
")	ハ ル ボ セ ラ ス	"
")	ア マ ル テ ウ ス	"
矢 石)	ペ リ ス フ ィ ン ク テ ス	"
ウ 二 枚 貝)	ベ レ ム ニ テ ス	"
三 角 貝、二 枚 貝)	シ ダ リ ス の ト ゲ	"
層 孔 虫)	ヒ ッ ポ ポ ジ ウ ム	"
六 射 サ ン ゴ)	ト リ ゴ ニ ヤ	"
裸 子 植物)	ス ト ロ マ ト ポ ー ラ	"
単 子 葉 植物、シュロ科) "	タ ム ナ ス テ リ ア	新 生 代、第 三 紀
有 孔 虫)	メ タ セ コ イ ア	"
二 枚 貝)	サ バ リ テ ス	"
有 孔 虫)	貨 幣 石	"
	タ イ ア シ ラ	"
	レ ピ ド シ ク リ ナ	"

(#)		オバキユリナ	新生代, 第三紀
(魚)		カルカロドン	"
(哺乳類, 車 輪 目)		パレオパラドキシア頭部模型	"
(双 子 葉) 植物		コンプトニフィルム	"
(石 灰 藻)		リソフィルム	"
(#)		リソサムニオン	"
(二 枚 貝)		トウキョウホタテガイ	新生代, 第四紀
(#)		ナガヌマイタヤ	"
(植 物)		オニモミジ	"
(#)		ヒメコマツ	"
(二 枚 貝)		イタヤガイ	"
(植 物)		オニグルミ	"
(#)		ホザキノフサモ	"
(哺乳類, 象)		マンモス臼歯	"
(古 代 牛)		バイソン	"
(哺乳類, 象)		ナウマンゾウの牙	"
(哺乳類, 花 鹿) (模型)		カ ロ ク	"
(二 枚 貝)		マ ガ キ	"
(#)		ア カ ガ イ	"
(半 化 石)		エピオルニスの卵	(マダガスカル島)
(模 型)		象の頭の変化	
(模 型)		馬の足の変化	
(魚)	カラングブシス	イタリア, モンテホルカ	新生代 第三紀始新世
(#)	リコプテラ	中国, 熱河, 凌原	中生代 ジュラ紀
(#)	サバストデス	群馬県	中生代 ジュラ紀
(#)	ギロドス	ドイツ, ゴーレンホーフエン	中生代 ジュラ紀
(#)	アンブリプテルス	ドイツ,	古生代 二疊紀
(#)	ニシン科	アメリカ, ワイオミング, グリーンリバー層	新生代 第三紀 始新世
(#)	科, 種 不明	"	"
(魚)	セファラスピス	スコットランド, フォファシアー	古生代 デボン紀
模 型			
(植 物)	トクサの仲間	新潟県青海町	中生代 ジュラ紀
(#)	"	北海道夕張	新生代 第三紀

九 州 大 学

ア ン モ ナ イ ト	白亜紀	
"	"	夕張
二 枚 貝 (三 角 貝)	"	三角貝 砂岩 夕張, 三笠層
二 枚 貝 (カ キ)	ジュラ紀	イギリス
ア ン モ ナ イ	三疊紀	ドイツ
二 枚 貝 (三 角 貝)	ジュラ紀	フランス
"	"	イギリス
二 枚 貝 (三 角 貝)	白亜紀	平井賀
現 生 (#)	現生	オーストラリア・ビクトリア
二 枚 貝 (イ ノ セ ラ ム ス)	白亜紀	浦河
二 枚 貝 (三 角 貝)	"	イギリス Portlandian
異 常 巻 ・ ア ン モ ナ イ ト	石膏模型	天塩 佐久
二 枚 貝 (イ ノ セ ラ ム ス)	"	浦河

枚貝 (イノセラムス)	石膏模型	長知内
貝, (笠型)	"	カラフト
ンモナイト	"	モンタナ
"	"	幾春別, セノマンアン
"	"	浦河
"	"	アベシナイ
ンモナイトのフタ	"	中頓別
ンモナイト	"	天草
ンモナイト	白亜紀	Bourre, Loiret cher, France, Turonian.
"	"	Lower Valanginian フランス
枚貝 (イノセラムス)	"	カラフト
"	"	佐久
ルビトリナ砂岩 (有孔虫を含む)	"	宮古 L. Alban Albian
ンモナイト	ジュラ紀	菲の浜附近
"	切断標本	イギリス Jurassic

山口県立山口博物館

シシュウタマキガイ 下関市彦島 芦屋層群彦島層 新三紀中新世
 オキナエビス (岐阜県美濃赤坂産) 古生代下部二疊紀
 ベニオキナエビス (現生)

秋吉台科学博物館

洋体サンゴ	和吉台住友セメント採石場	秋吉石灰岩層群	下部石炭紀最上部 Millerella 帯
	秋吉台岩永石	"	下部石炭紀上部 Nagotophyllum 帯
単体サンゴ	大久保	"	下部石炭紀中部 Zaqhrentaides 帯
洋体サンゴ	" 銀波採石場	"	下部二疊紀 Psendofusulina Vulyaris 帯
フズリナ個体	"	"	"
フズリナ	於福台茨原採石場	"	上部二疊紀 上部 Tabeina shiraiwensis 帯
腕足類	江原台ウズラ採石場	"	下部二疊紀 最上部
ウミユリ	小野田セメント採石場	"	下部二疊紀

大形哺乳類 (数点)
魚類化石

化石 壱岐 第三紀
 直物化石 山口県美禰市大嶺 中生代 三疊紀

山口県立大嶺高等学校

大型シダ	山口県大嶺町	美禰統 桃ノ木層	中生代三疊紀
蓴果植物	"	"	"
微小動物化石群塊	秋吉台の西	秋吉褐色粘土層	新生代第四紀 洪積世 コウモリを主とした化石群集
微小動物化石整理標本	"	"	ネズミ, モグラなどの化石

アンモナイト (3)
山口県豊田町石町

西中山層

中生代ジュラ紀

ウミユリ	山口県美禰市伊佐町	秋吉古生層	古生代二疊紀	側枝のついたもの
サンゴ大型化石	"	"	"	
イチョウの大型化石	山口県大嶺町	美禰統桃木層	中生代三疊紀	

◎長崎県志岐郷土館

昆虫	志岐声辺町	キリギリス科テルパンドルス属? (現在のキリギリス科ササキに近い)	新生代 第三紀	
硬骨魚	志岐声辺町		新生代 第三紀	

◎鹿児島県文化センター

三葉虫	アメリカ、ユタ州		古生代カンブリア紀
"	オンタリオ州	テレントン層	" オールドビス紀
"	ニューヨーク州		" シルリア紀
"	オンタリオ州	ワシタ層	" デボン紀
アンモナイト	(1個) ユタ州		中生代 ジュラ紀
恐竜の足跡	ユタ州		" ジュラ紀
カメ	サウスダコダ州		新生代第三紀漸新世

◎鹿児島県立博物館

二枚貝	鹿児島県 (リマ)	古第三紀層
フナ	(植物)	第四紀層
"	"	

◎県内

二枚貝	伊万里市楠久麻生鉱産	佐世保層群	第三紀	当館所有 (寄贈品)
アシヤニシキ	南波多中学校所有	行合野砂岩層	"	
ナガオオハネガ	江北小学校所有	佐里砂岩層	"	
巻貝、ヒタチオビ	南波多中学校所有	行合野砂岩層	"	
ウニ、ブンブクチャガマ	有田扇谷町産有田中部小学校		"	
ツキシマ	北方鉱業所産		第三紀	当館所有 (寄贈品)
メタセコイヤ	杵島五坑産江北中学校所有		"	
珪化木 (俗名、松石)	"	"	"	
ムカシアオザメ歯	加倉採石地波多津東小学校所有		"	
ノウマンゾウ白歯	神集島高崎園久所有	鳥帽子灯台沖海底 40~50m	第四紀洪積世	
二枚貝	巖木中学校所有	ベネリカルディア、グリキメリス、カリスタ	第三紀	
珪化木	八幡岳中腹相知町役場所有	メノウを含有する	第三紀	

◎伊万里市立川鉱業所

カ	メ	(中型)	相知町佐里採石所産	佐里砂岩層	第三紀
カ	メ	(小型)	"	"	"
サ	メ	の 脊 椎 骨	相知町佐里採石所産	佐里砂岩層	第三紀
ク	リ	の 実	"	"	"
メ	タ	セ コ	イ ヤ 立川鉱業所	坑 内	"
ニ	枚	貝	城野峠ほか	杵島層ほか	"
巻		貝	"	"	"
ウ		ニ	佐里採石所産	佐里砂岩層	"
サ	メ	の 歯	"	"	"
柳	の	葉 Selix sp.	立川鉱内五尺層下	芳ノ谷層 天盤芳の谷層下部	"

◎相知町 青木隆弘

P 1 ~ P 10

ヨ コ ヤ マ オ ウ ム 貝
北波多村稗田 行合野砂岩層下部

P 11

ナ ガ オ オ ウ ム 貝
行合野恵木

P 11 ~ P 15

海 生 哺 乳 類 動 物
"

R 1, T 5

サ メ の 歯
北波多村行合野

R 2, T 6

" " 稗田 "

R 3 ~ R 10

小 型 サ メ の 歯
" 稗田, 佐里 佐里砂岩層

L 1

魚 類 の ヒ レ
行合野 行合野砂岩層下部

A 10 ~ 13, A 17

サメの背骨 (ムカシアオザメ)
" " "

A 25

クジラ又はイルカの骨
"

D 8

ヤマカワイトカケ
" "

E 5, 6, 6

ナガオオオハガネガイ
伊万里市大川野 "

E 11, E 12

ニシヤマオオハネガイ
北波多村行合野 "

B 33, B 34

ウ " 恵木 "

B35

ムカシブシブク

行合野

S6, S15

ダイプロクテニウム ルナータム
相知町佐里

佐里砂岩層

◎井原潤次郎出品

リコプテラ(魚), 中国, 熱河, 凌原 中生代, ジュラ紀

◎村岡英二 寄贈

光鱗魚 南米, ブラジル 中生代, 白亜紀

◎与猶梅雄 寄贈

カプトガニ(節足動物), 伊万里市波多津海岸

◎佐賀大学 西田民雄講師出品

アンモナイトほか 10点。

◎佐賀北高等学校1

ウミユリ 現生標本

◎佐賀島津株式会社 出品

シーラカンス, ラチメリヤ 模型標本

常 設 展

会期 昭和45年12月10日～昭和46年2月15日

1. 考古関係

先土器、縄文、弥生、古墳の各時代別に、県内出土の代表的な遺物を系統的に展示し、本県の先史、原史時代の歴史と文化の遺物を通じて理解できるようにし、観覧者の理解を深めるために、パネルや模型、地図なども豊富に活用した。

また、本県における先史時代の始まりと、自然環境との関係を明らかにするため、自然環境や自然科学分野の資料も活用展示した。

2. 歴史関係

奈良時代から室町時代末期にいたるまでの県内資料を中心として、パネルや写真なども活用し、系統的に展示して、本県の歴史と文化の歩みを理解できるようにした。江戸時代以後は、民俗資料などもとりいれて、藩政時代における社会、文化の特色を明らかにするとともに、幕末から明治維新において、佐賀県が果たした業績を正しく評価し、顕彰するように展示した。

3. 美術工芸関係

これまで展示してきたものは、絵画、書、陶磁器、刀剣、金工等である。絵画、書では明治以降の本県出身者を主とする作品を、陶磁器、刀剣では桃山以降のいわゆる肥前陶磁器ならびに肥前刀を主体に展示している。

本県における美術史の流れを知るとともに、美術作品そのものを鑑賞できるようつとめた。

第 1 号 展 示 室 (自 然 科 学)

岩 石 鉱 物

富 士 町 杉 山 産

”

磯 木 町 産

石 英 (珪石)

カ リ 長 石

蛇 紋 岩

多	久	市	産			安	山	岩	(サヌカイト)
		"				玄	武	岩	
伊	万	里	市	腰	岳	産	黒	よ	石
黒	髪	山	産				松	脂	岩
		"					真	珠	岩
有	田	町	白	川	産		陶		
相	知	町	佐	里	産		砂		岩
叡	木	町	産				晶	質	石
嬉	野	町	俵	坂	産		珪	そ	う
富	士	町	杉	山	産		石		土
多	久	市	相	浦	産		球	状	閃
叡	木	町	産				電	気	緑
山	内	町	古	場	産		真	珠	岩
富	士	町	杉	山	産		ザ	ク	ロ
伊	万	里	市	西	産		輝		石
叡	木	町	産				ク	ロ	一
		"					マ	ン	ム
									産

化 石

伊	万	里	立	川	産	業	所	産	の	化	石	一	括
江	北	町	土	元	産				二	枚	貝	(リマ)	
芳	ノ	谷	層	産					"			(ベネリカルディア)	
		"							"			(トシニヤ)	
肥	前	町	湯	ノ	浦	産			卷		貝	(イトカケの仲間)	
行	合	野	砂	岩	層	産			イ	タ	ヤ	ガ	イ
		"							ヒ	タ	チ	オ	ビ
有	田	町	扇	谷	産				ウ		ニ		
加	倉	採	石	地	産				サ	メ	の	牙	
杵	島	五	坑	産					メ	タ	セ	コ	イ
		"							珪	化	木	イ	ヤ
佐	世	保	層	産					二	枚	貝		
杵	島	層	産						ハ		ス		
秋	吉	台	西	産					微	小	獸	骨	化
下	関	市	彦	島	産				第	三	紀	の	母
山	口	桃	ノ	木	産				中	世	代	三	大
		"							代	三	疊	紀	系
		"							"				大
		"							"				型
													シ
													ダ
													類
													ト
													ク
													サ
													類
													イ
													チ
													ョ
													ウ
													類

恐龍 (タイラノザウルス) 生態模型

佐賀県 模型 (2万5千分の1)
 佐賀の野鳥
 カササギの巣
 カササギ
 キジ (ニホンキジ)
 " (コウライキジ)
 ヤマドリ
 コジュケイ
 カラス
 カケス

有明海の魚類と水鳥

ムツゴロウ
 ワラスボ
 シオマネキ
 タイラギ
 シャミセンガイ

ヒ	シ	ク	イ					北	山	ダ	ム	の	野	鳥
ヒ	ロ	ウ	ド	キ	ン	ク	ロ	ヨ	シ	ガ	モ			
ダ	イ	シ	ヤ	ク	シ	ギ		ト	モ	エ	ガ	モ		
ク	ロ	サ	ギ					オ	シ	ド	リ			
コ	サ	ギ						コ	ガ	モ				
								カ	ル	ガ	モ			
								ツ	ク	シ	ガ	モ		
								ツ	ル	ク	イ	ナ		

第 2 号 展 示 室 (考 古)

唐津湾海底出土のナウマン象の歯の化石
 鬼の鼻山先土器遺跡出土の尖頭器
 三年山・茶園原先土器遺跡出土の尖頭器
 馬渡島切立遺跡出土の細石器
 白蛇山洞穴出土の先土器・縄文遺物
 盗人岩洞穴出土の縄文遺物
 赤松海底遺跡出土の縄文遺物
 青森県出土の縄文式土器
 坂の下縄文遺跡出土の土器・石器
 坂の下縄文遺跡出土のアミ・カゴ・木の実
 坂の下縄文遺跡出土のアラガシの発芽した幼木
 大友弥生遺跡出土の貝鈿
 " 装身具
 " カメ棺
 切通弥生遺跡出土のカメ棺
 樺島山弥生石棺出土の鏡・玉・刀子
 武雄市溝の上遺跡出土の銅鉾
 西塩屋弥生貝塚出土の石器
 東宮裾弥生遺跡出土のヒトデ形銅器・管玉
 桜馬場弥生遺跡出土の鏡・銅釧・巴型銅器他(重要文化財)
 熊本山古墳の舟型石棺から発見された一括遺物
 柰路寺古墳出土の鏡・鉄刀
 関行丸古墳出土の一括遺物
 山王山古墳出土の各種鉄器
 竜王崎古墳群出土の冠とその他一括遺物
 永池古墳出土の細線刻文様の石材
 太田古墳の壁画模写図・復原図
 太田古墳の石室模型・全体模型
 伊勢山祭祀遺跡出土の各種祭祀遺物
 東十郎古墳群出土の一括遺物
 鳥栖市サロンパス工場地内出土の木製スコップ
 永田古墳群出土の子持勾玉
 " 子持壺
 朝鮮半島出土の土器

第 3 号 展 示 室 (歴 史)

肥前国分寺跡出土鬼瓦・複弁鏡瓦

大願寺廃寺跡出土字瓦・鏡瓦
基肄城跡出土瓦
大和町出土蔵骨器
小城町出土蔵骨器
多久市山崎経塚出土品（佐賀県重要文化財）
大町町仏法提経塚出土品（佐賀県重要文化財）
背振村経塚出土品
木造 帝釈天立像（重要文化財）
木造 阿弥陀如来坐像（重要文化財）
木造 円鑑禪師坐像（重要文化財）
文永八年沙弥尊光寺領寄進状
天正十八年写御成敗式目
文永八年銘水上懸仏（佐賀県重要文化財）
銅製雲板
宝徳元年銘青銅祭器
天正十六年
天文元年銘金銅製文箱・香炉箱
天正十九年銘鰐口
龍造寺隆信画像
水ヶ江城絵図
肥前名護屋図屏風
〃 瓦
朝鮮国通諭
豊臣秀吉朱印状
朝鮮の役陣立書
豊臣秀吉使用の水指他
寛文銘石造肥前狛犬
石造観音坐像
田代売薬関係資料
薬版木
通行証
薬原料
天保二年銘薬劑調合帳
さ切
元治元年銘絹篩
鉢
練棒
薬劑
薬袋
鍋島直茂画像
〃 鏡
〃 自筆書状
鍋島勝茂画像
〃 自筆書状
慶長肥前国絵図
佐嘉小城内絵図
佐賀城下絵図
唐津城下絵図
佐嘉城瓦

島原の乱関係資料
 肥前国春城攻図
 覚ほか書状
 戦死者名簿
 聖堂（廟）関係資料
 天縦殿額
 琵琶
 文宣王像
 文廟記
 聖像三体
 楽器，祭器
 弘道館見取図
 弘道館蔵書籍
 東原痒舎学則
 「はがくれ」の写本（各種）
 直正公画像
 日本地図大皿
 九州地図角皿
 ペリー浦賀来航見聞記
 築地反射炉の絵
 多布施反射炉の絵
 長崎伝習観光丸之絵
 三重津海軍港の絵
 精煉方使用磁器類
 精煉方製作ガラス器具類
 精煉方使用真空ポンプ
 精煉方製作献上ガラス器（金魚鉢，
 オランダ使節行列図 広口瓶）
 忠宣公オランダ船乗込図
 使節応接，御役所の絵画
 凌風丸絵
 汽車模型写真
 汽船模型写真
 種痘の絵
 手製顕微鏡
 トンメス分析表

維新佐賀七傑の写真
 義祭同盟連判状
 鍋島閑叟の書
 島 義勇の書
 佐野常民の書
 副島種臣の書
 大木喬任の書
 江藤新平の書
 大隈重信の肖像画
 戊辰関係資料
 先込銃
 朝倉弾藏遺品
 島新七遺品
 島義勇の旅日記
 民法決議1，2
 佐賀の乱処刑人名簿
 明治初期教育資料
 校札
 教科書類
 卒業証書類

（移動ケース展示分）

検地帳
 鳥子帳
 かまど帳
 刑罰帳
 宗門改め人別帳
 濟急封事
 学政管見
 儉法富強録
 家職要道
 肥前国産物図考
 寺小屋関係教本類
 絵本類
 藩札類

大 展 示 室（美術・工芸）

（絵 画）

老 婦 人 像
 イ タ リ ー 風 景
 マンドリンを持つ女
 爆弾に火をつける男
 ひ つ じ と 農 夫
 人 体 デ ッ サ ン
 鉛 筆 ス ケ ッ チ
 シ ン ガ ポ ー ル
 少 女
 テ ー ム ス 河 畔

百 武 兼 行
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 " "
 小 代 為 重
 "

柿右衛門系

染付花鳥文德利
染付柴垣文台鉢
彩繪うづら図小皿
乳白手色繪花蝶八橋文壺
彩繪花蝶文輪花型深鉢
彩繪秋草文角瓶
繪彩龍図陶板

藩窯系

色鍋島更紗文高台皿
"
染付青磁扇文高台皿
色鍋島地文唐花三方割中向付
鍋島青磁耳付花器
鍋島染付さぎ繪台鉢
" 藩窯繪図大皿

古伊万里系

彩繪亀甲文角德利
彩繪風俗図德利
染錦花鳥文深鉢
" 御所車風俗繪ひげ皿
" 唐子繪手付瓶
" 朝顔形花入
" 婦人像
" 美人樓閣図大鉢
錯釉牡丹唐獅子角瓶
彩繪五艘船大鉢
" 牡丹獅子図鉢
" 狛犬像
青磁彫文深鉢
錦手笹繪鳥図中皿
染付地図大皿

現代

錦手大花瓶
唐津叩き手壺
乳白手彩繪草花文蓋物
" 花鳥文花瓶
色鍋島更紗文八角大鉢
釉裏紅牡丹繪額皿
白磁螭手鈴蘭花器
" 浮彫草花文百合口花瓶

陶磁器參考資料

柿右衛門倣製品
磁州窯白釉黒花草花瓶
色鍋島製作工程
火入連判状
釜焼名代札他
金ヶ江三兵衛由緒書
繪葉取引の許可証
磁器送り状他
外国貿易の許可証

(金工)

葡萄に栗鼠像
管公座像

(刀剣)

刀、代忠吉
短刀 "
刀 二代忠吉
刀 四代忠吉
刀 銘、出羽大掾藤原国路
槍 銘、肥州神埼住 小河兵部丞源

槍 肥前国住人忠吉
脇差 肥前国河内大掾藤原正広

屋 外 展 示 場

五輪塔
三重塔
一石宝篋印塔他
元和二年銘六地藏
宝徳二年銘肥前板碑
永正五年銘肥前板碑他
正中銘関東板碑
佐嘉城 記石
名護屋城 陣跡の旗竿石

幕末維新佐賀先哲資料展

会期 1月15日～2月15日

県立博物館が明治100年を記念して建設されたことにかんがみ、昭和46年の年の始めにあたって佐賀の先哲者が幕末維新で果たした役割を改めて顧み、これからの郷土建設に希望を抱くために常設展と併行してこの資料展を開催した。

会場は中企画室を使用し、3号展示室の幕末維新関係資料からひき続き観覧できるようにした。展示は弘道館関係者を始め、幕末維新时期に活躍した17名の先哲者を中心に、主に墨跡や写真パネルを通して身近かに先哲者の業績を受けとめることができるようにした。

なお、この期の中心人物であった佐賀藩十代藩主鍋島直正公は、今年1月18日がその100年忌にあっており、東京、鍋島直泰氏からは直正関係の資料を特別に提供していただいた点厚く感謝したい。提供資料の中には当地では未公開のものもあり豊かな資料展とすることができた。また交通博物館から佐賀藩精練方製造のわが国最初の蒸気車模型の貸与を受け観覧者の関心を一層ふかめることができた。

なお会期は1月15日から2月15日までの1ヶ月とした。

幕末維新佐賀先哲資料展出品目録 (70点)

品名	数量	備考
(1)書画		
古賀精里 書	2	「育徳」「処善」
古賀穀堂 書	1	「鳴鳩乳…」
古賀侗菴 書	1	「天地不能…」
草場佩川 詩画	2	菊に題する詩画1、竹画
鍋島直正 書画	7	「近江八景」絵、和歌「春の…」(10才時)七言律詩、春謝賜桜花七言律詩、「時平…」七言絶句、春遊七言絶句「潤上花…」「先天下之…」
古川松根 画	3	菅公像、人麿朝臣像、菊二水仙
鍋島直大 書	1	「公心如日月」
鍋島直彬 書	1	「主敬」
佐野常民 書	1	萬翠楼養痾雜吟一
大木喬任 書	1	「翻々……」
島 義勇 歌	1	和歌「都おも…」
江藤新平 書	1	八郎様あて書簡
大隈重信 書	1	八太郎の書、複製
(2)肖像画		
鍋島直正肖像	1	油絵
鍋島直大肖像	1	油絵
鍋島直彬肖像	1	油絵
(3)絵図		
鍋島直正生立一代記	1組	17枚
種痘の図	1	陣内松齡画
築地銃破製造所図	1	秀島成忠画
三重津軍港図	1	秀島成忠画

品名	数量	備考
長崎港砲台図	1	秀島成忠画
上野彰義隊攻撃図	1	秀島成忠画
(4)写真		
鍋島直正関係	4	笹山狩場、神野茶屋、佐嘉神社、春日山墓所
古川松根 //	1	筆塚
伊東玄朴 //	2	肖像、生地
相良知安 //	2	肖像、墓地
中牟田倉之助 //	2	肖像、墓地
江藤新平 //	2	肖像、墓地
島 義勇 //	2	肖像、墓地
大隈重信 //	2	肖像、旧宅
副島種臣 //	2	肖像、生誕地
大木喬任 //	2	肖像、生誕地
佐野常民 //	2	肖像、生誕地
古賀精里 //	1	墓地
弘道館 //	1	弘道館跡
佐賀の乱 //	2	万部島記念碑1、墓地1
(5)鍋島直正公関係品		
蝦夷開拓勅書	1	明治4年
袴	2	長袴、袴
短刀	1	初代忠吉、佐賀市重文
定紋付六寸三段重	1	金蒔絵漆器
梨地定紋付化粧箱	1	〃
金蒔絵御飯櫃	1	〃
黒地源氏模様五段重	1	〃
(6)その他		
精練方製造蒸気車模型	1	安政2年
官員録	1	明治初年

観 覧 者 数

桃山江戸美術名作展 (45.10.15~11.3 20日間)

個 人			団 体			招待者	合 計	1日平均観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小			
7,185人	1,620人	2,402人	1,411人	3,999人	5,211人	856人	22,764人	1,138人

第20回 佐賀県美術展覧会 (45.11.16~29 14日間)

個 人			団 体			招待者	合 計	1日平均観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小			
4,370人	1,576人	2,261人	1,000人	3,365人	4,822人	851人	18,515人	1,322人

化 石 展 (46.2.20~3.25 34日間)

個 人			団 体			招待者	合 計	1日平均観覧者数
大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小			
2,735人	791人	3,803人	366人	1,254人	3,147人	136人	12,232人	360人

常 設 展 (45.12.10~46.2.15 53日間)
(46.3.30~46.3.31)

	個 人			団 体			随 時 観 覧 券			合 計	1日平均観覧者数
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小		
有料	2,125人	466人	1,566人	244人	66人	24人	8人	0	14人	4,513人	119人
無料	293人	52人	246人	51人	281人	866人				1,789人	
計	2,418人	518人	1,812人	295人	347人	890人	8人	0	14人	6,302人	

注、(無料の欄は観覧料免除者数である。高校から小学校までの児童生徒の団体観覧料は免除されており、また「成人の日」には、一般観覧者も観覧料を免除されるので、その数を表わしている。なお、団体欄の大人の数字は児童生徒の引卒者である。)

講 演 会

「桃山江戸美術名作展」の会期中10月24日に中展示室で次のような講演会を実施した。聴講者は約 143名であった。

「桃山江戸時代の絵画の系譜」

九州大学教授 谷 口 鉄 雄

「桃山江戸時代の工芸について」

文化庁文化財鑑査官 岡 田 諒

また「化石展」の会期中3月6日に、同じく中展示室で次のような講演会を実施した。なお、聴講者は 130名のぼった。

「生物の進化と絶滅」

国立科学博物館地学研究部長 尾 崎 博

講演要旨は次のとおりである。

桃山江戸絵画の系譜（講演要旨）

九州大学教授 谷 口 鉄 雄

日本の美術は、中国の影響を受けている。倭絵は日本的といわれているが、果たしてそうであろうか。浮世絵日本的といわれているが、オリジナルな点は日本的ではない。最初は、中国のものを版画としたのが始まりで、に独得の錦絵となった。漢時代の抽象的な絵画と、六朝から唐初にかけての、空間の描写は抽象的であるが、し写実が加わった絵画、この二系統の絵画の影響を受けているのが倭絵である。倭絵と漢画的なものとの融合しものが、桃山の美術と考えてよいのである。

飛鳥時代の過去現在因果経は、上方に絵を描き下方に文字を書いているが、これは六朝の影響を受けている。だ樹木が若い、日本人が描く樹木は、いつの時代でも若い。

法隆寺の玉虫厨子の捨身飼虎図は、観念的で立体的なものが多い漢時代の絵画の影響を受けている。この絵のは若く、樹木もまた若い。

正倉院の琵琶の絵は、奥行があって空間がでている。しかし、まだ完成されておらず、六朝から唐初にかけて絵画の影響を受けている。また、人物はしっかりしているが、観念的である。

法隆寺の壁画には陰陽があって、陰影的なものの発生が見られる。この描写は、印度に発生したもので、中国を経てわが国に伝わったものである。顔の線の鉄線描は、法隆寺壁画の一つの特徴である。しかし、まだ線の大・遅速・濃淡等の描法は出ていない。また、三面鏡の冠の描き方には立体観がない。焼けた壁画には、ガラス盆にのった花が描かれているが、ガラスを透かして向う側を見せる描写をしている。この段階まで法隆寺の壁の描写は進んでいる。

鳥毛たつ婦人像の後の木は全く中国的で、節くれだってゴツゴツしており、古木が描かれている。

正倉院の墨描菩薩像には、線の多様化が見られ、また陰影があって、唐の絵画の影響を受けていることが知らる。とにかく、天平時代に唐絵画の影響を強く受けいれているのである。

東寺の山水屏風は、唐絵から倭絵に移る段階のものであって、木は若く、風景の描写は写実的でない。また、密な意味での遠近法には、なっていない。

平等院の九品往生図には、広くひろびろとした風景が出てい。この図は、唐絵画の影響を受けている。

鎌倉時代の地獄草子には、はげしいリズムが現われている。

水墨画は、宋の絵画の影響を受けたものであって、写実・空間等あらゆるものがよく表現されている。この水画と倭絵とが融合したものが桃山の絵画であって、倭絵的なものと漢画的なものとの調和した絵画である。桃美術は、近代的な面も有しており、唐獅子の屏風に見られるように、実物より却って絵が大きいという誇大観みられる。

桃山江戸時代の工芸について（講演要旨）

文化庁文化財鑑査官 岡 田 謙

近世工芸の位置・近世工芸の発達の要因・近世工芸の展開という三つの項目について、概観してみたい。古代文化は貴族中心であり、中世は武家中心、近世に入ると武家中心ではあるが、町人の台頭がみられる。一応こように、わが国の文化の変遷をとらえることができる。また、工芸は大きく宗教関係・戦闘関係・生活関係の部門に分類することができ、古代においては宗教関係の工芸に最も特色があり、中世においては戦闘関係のものが中心となっている。

近世は、文化が京都中心から地域的に地方へひろまり、武家・町人と階級に応じた変化があらわれ、多様性にものが特色である。わが国の工芸の特色として、一貫性が考えられ、革命性がない。これは、単に工芸のみでなく、日本文化の特色でもある。わが国の工芸は、世界で最も多様性に富んでいる。日本人の性格に、進歩性と守性とは併存していることも多様化の一原因である。

発達の要因をなすものは、生活様式の変化と意識の変化である。墨がなく、間仕切がなかった平安時代の貴族住居であった寝殿造りが、室町時代末期から桃山時代にかけて書院造りとして完成される。書院造りの特色はの間・違い棚・書院などのように、移動可能なものの固定化であり、書院造りによって最も発達したものは調

度である。

元来は下着であった小袖が、重ねが少なくなって遂に上着となり、今日の着物の前身となった。小袖は、貴族・武士・町をとわず一般化していった、着物の上では階級差がなくなっていく。重ね着は、袖や裾に現われ重ねの色目、すなわち配色の美しさにあった。小袖になると、肢体の線が現われ、色ではなく、模様の美しさが重要になってくる。そこで、模様が発達し、その基盤をなすところの染織技術の発達をうながした。

茶の湯の普及は、生活の向上と密接に結びついていて、日本の素材をもって種々の用具が考案された。わが国における美意識は、平安時代に芽生えていて、唐物と呼ばれる中国製の工芸品が、わが国の工芸に強い影響を与えている。その唐物を、日本人の眼で選び日本人の眼で評価する。そこに新しいものが除々に芽生えてくる。桃山時代になると、形と装飾とを意識しながら製作に当たっている。また、それぞれの作家の個生美が現われてくる。平安時代の日本的な調和美と桃山時代から江戸時代初期にかけて個生美、この二つが日本的な美の二つのピークである。

調和美と個生美、それにデザイナー的なものが加味されたのが茶人によって完成された。その代表が利久であり、古田織部であり、光悦である。

近世美術の展開にも山がある。桃山・天正・文禄、寛永～寛文、元禄～享保、文化～文政と大別することができる。近世の美術は、享保年間をさかいにして二分することができるが、それは享保以前は京都中心の美術であり、京都の美術が江戸に移って花を咲かせたのが文化・文政の美術である。

桃山美術では、武士のものに特長がみられるが、その例として高台寺蒔絵があげられる。しかし、寛永のころになると、次第に町人的なものが現われ、元禄ごろになると、一段と隆盛に向かうが、その代表的なものが尾形光琳である。柿右衛門・仁清・古九谷なども寛永年間であり、これらの工芸の主流が享保年間をさかいとして江戸に移るのであるが、これが近世工芸の大きな展開である。

生物の進化と滅亡

——恐竜を例にとって——

東京国立科学博物館地学研究部長理学博士 尾 崎 博

地球の歴史や人類の歴史は、戦後長くなった。地球の歴史は、4～5億年といわれていたのが40億年となった。そして45億7千万年という鉱物が発見されるにいたった。この鉱物は、広い地球の中の一部のものにすぎないから、これから後もっと古いものが発見される可能性があり、地球の歴史はさらに長くなるのではないかと考えられる。

5億7千万年前の古生代の最初の時期に、地球上に三葉虫という動物が、世界中のいたるところに同時に現われた。三葉虫は、小さいのが1センチ、大きいのが70センチぐらいで、イカ・カニ・シャコのような仲間 に似ており、骨がなくて体が節になっている。

10年前、オーストラリアからサンヨウ虫より100メートルも下の地層から化石が発見された。これは、クラゲやミミズに似たものであって、これによって古生代よりも前から動物がいたことが明らかになった。

アメーバのような原生動物が早くから地球上に生息していたらしい。カイメン様の生物であるカケラ、センチユウ動物であるコケムシ、シャミセン貝は古生代の最初の地層から発見され、アサリ・ハマグリなどの軟体動物は古生代のカンブリア紀から現われる。

生物の歴史は、古い。植物は動物よりさらに古いと考えられる。砂岩・泥岩・石灰岩などにセキボクが点々とはいっている。一番古い植物の化石は、20～30億年前のものである。アメリカの五大湖の20億年前の地層からアオミドロの化石が発見された。満州の安山の鉄鉱も同じ時代で、20億年前である。鉄が沈殿するのは、バクテリアの作用である。

5億7千万年前、はっきり動物が判るようになった。最初の動物はどんなものかということ、卵の白味かカンテラのようなもので、細胞が簡単な動物である。現在、地球上に120～200万種の動物が生存している。どうして違った動物が生まれるのか。単純なものからその環境に合わせて複雑になっていく。地球の原則を規準にすると、生きようとする努力が生物を変え、変えきらなかったものが滅びるのである。

脊椎(セキツイ)動物は、古生代のなかばごろ、約4億年前に初めて地球上に現われた。4億年前に現われたナメクジウヲというのは、半透明の動物で、骨ではないが頭から尾の方まで神経のようなものが通り、それを中心にして肉がついていて、水中に生息していた。

これが現われてから動物界に大変動がおこった。ヨロイのような骨で身を固めたカツチュウ魚、軟らかい骨の

サメなどの動物が現われてきたのである。また、大きい魚の仲間もでてきて、セキツイ動物が強くなって、

中生代の終りごろに、その魚の中から陸にはい上ることのできるものが現われた。陸に上っている中に、空気呼吸ができるようになり、ヒレが指にかわって歩行することができるようになった。これが両棲類である。

両棲類が現われた時、その中から変ったのが一つでてきた。卵に殻がつき陸上に卵を生むことのできる動物で

て、これがハ虫類である。地上はそのころ亜熱帯のように気候があたたかく、夏と冬の温度の差がなくて、樹木が生い茂っており、南から北極まで植物も動物も生育できるような環境であった。高さ30メートルもあるシダやトグサ、あるいはヒノカズラなどの大きい樹木が生い茂り、70センチもあるトンボや羽の長さが30センチもあるゴキブリの仲間、水中にはヒルやグラゲの仲間なども住んでいた。これらの動物が地球上のいたるところに数多く住んでい

る。温暖な気候と豊富な食物に恵まれたハ虫類の仲間は、からだが大きくなっていくとともに、地球上のいたるところに散らばっていった。恐竜時代を迎えたのである。

しかし、7000万年前になると、恐竜の仲間は地球上から全く姿を消してしまって、地球上の動物界に大きな変化がおこった。恐竜は、2億3千万年の寿命をもっていたことになり、余り短いものとはいえないように思われる。

恐竜の後に地球上に現われたところの鹿・象・クジラなど人類を含めての哺乳類の仲間はどうかであろうか。鹿

もそしてクジラなども人類をのぞいては、今日相当に減少していて、陸からも海からも哺乳類は次第に姿を消して

いっている。このことから考えて、哺乳類の世界は、大体7000万年ということができるようである。



講演会風景



桃山江戸美術名作展風景



桃山江戸美術名作展風景



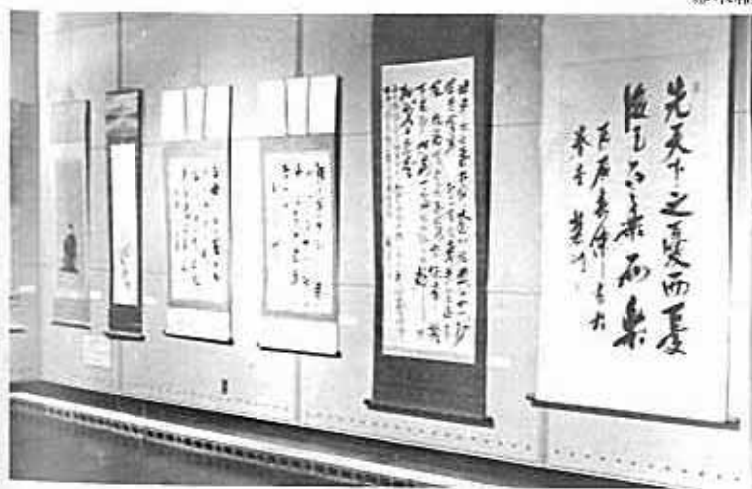
化石展風景



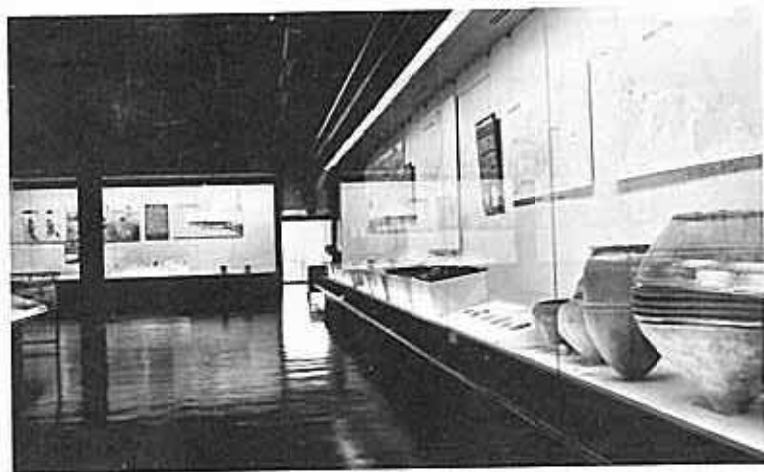
化石展風景



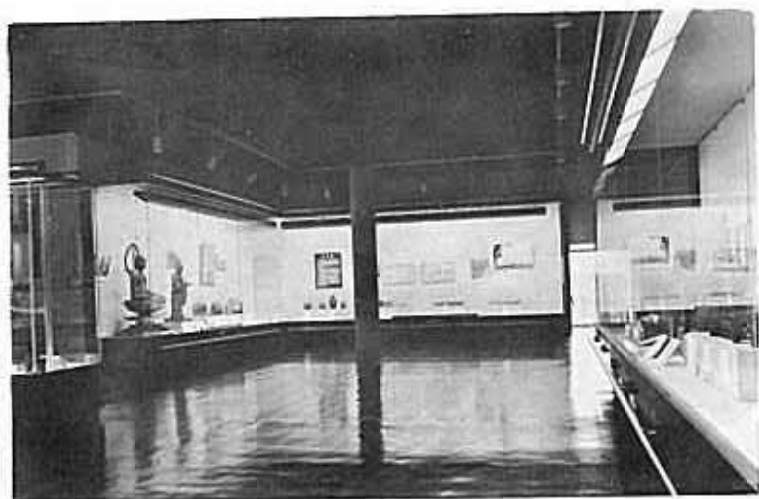
幕末維新佐賀先哲資料展



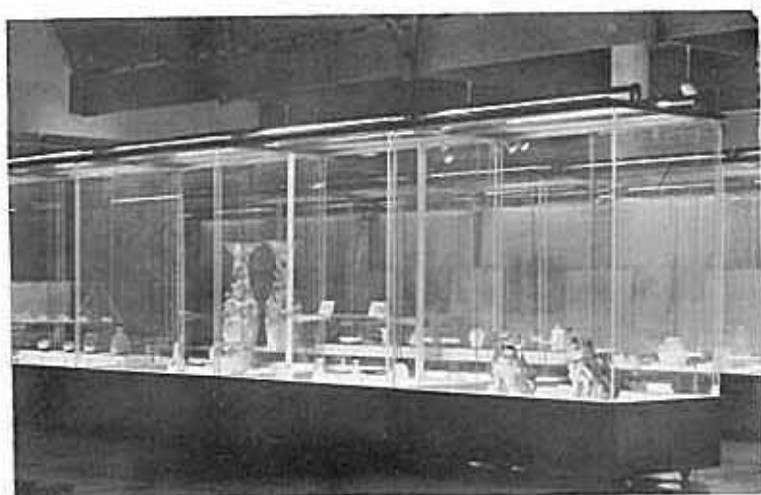
幕末維新佐賀先哲資料展



常設展・2号展示室



常設展・3号展示室



常設展・大展示室

博物館資料の概況

昭和45年度以前
自然科学資料
岩石鉱物

品名	数量	備考
○火成岩 玄武岩、安山岩、流紋岩 球状閃緑岩、花こう岩など	125	県内採集
○堆積岩 泥岩、頁岩、砂岩など	7	県内採集
○変成岩	7	県内採集
○造岩鉱物 石綿、輝石、電気石など	16	
○金属鉱物 マンガン鉱、クローム鉄鉱など	14	
野鳥標本ほか 計	159	
◎昭和45年度以前 剥製標本		
アトリ科	19	
ツグミ科	14	
ヒヨドリ科	1	
ウグイス科	2	
カラス科	9	カササギ3
ヒバリ科	1	コクマルガ
ヒタキ科	7	ラス1、
シジュウガラ科	8	ホシガラス
ゴジュウガラ科	1	
メジロ科	1	
ミソサザイ科	1	
キバシリ科	1	
モズ科	2	
レンジヤク科	2	
セキレイ科	2	
サギ科	5	
カイツブリ科	1	
クイナ科	2	
ガンカモ科	28	
カワセミ科	4	
キツツキ科	3	
キシキ科	11	
ハト科	2	
シギ科	7	
ワシタカ科	2	
フクロウ科	4	
ヨタカ科	1	
カモメ科	1	
ミズナキドリ科	1	
ペンギン科	1	
ウアビ科	1	

品名	数量	備考
野鳥の巣と卵	11	
コゲラの巣	2	
アオゲラの巣	1	41.1.27
ウグイスの巣	1	枯竹
オオヨシキリの巣と卵	1	
オオヨシキリの巣	1	
ホオジロの巣と卵	1	
ホオジロの巣	1	
エナガの巣	1	
ヒヨドリの巣	1	
カササギの巣	2	
巣箱	2	
魚貝類標本 計	277	
玄海産魚類 サメ、アカエイ、フグ、イシダイなど	84	
有明海産魚類 ムツゴロウ、トサカギンポ、ヘイケガニ、サヨリなど	61	
淡水産魚貝類 ナマズ、ウナギ、カラスガイ、イカワニナ、ザリガニなど	17	
貝類標本	115	
昆虫標本 計	155	
アゲハチョウ科	22	
シロチョウ科	23	
マダラチョウ科	1	
ジャノメチョウ科	21	
タテハチョウ科	20	
シジミチョウ科	33	
セセリチョウ科	13	
ヒトリガ科	1	
ヤガ科	4	
スズメガ科	8	
シャチホコ科	2	
シャクトリガ科	5	
ヤママユガ科	1	
ツバメガ科	1	
マダラガ科	2	
イカリモンガ科	1	
ハマキガ科	1	
アブ科	1	
スズメバチ科	1	
コマコバチ科	1	
ツノトンボ科	1	
ウスバカゲロウ科	1	
セミ科	5	
トンボ科	8	

品名	数量	備考
植物標本計		2,197
マツバラン科	1	
ヒカゲノカズラ科	4	
イワヒバ科	3	
ミズニラ	1	
トクサ科	2	
ハナワラビ科	1	
ゼンマイ科	1	
フサシダ科	1	
ウラジロ科	3	
コケシノブ科	6	
イノモトソウ科	19	
ミズワラビ科	1	
キジノオシダ科	3	
オシダ科	50	
シシガシラ科	2	
チヤセンシダ科	5	
スジヒトツバ科	1	
ウラボシ科	12	
シシラン科	1	
イチイ科	1	
マツ科	1	
スギ科	1	
ヒノキ科	1	
ガマ科	1	
ミクリ科	1	
ヒルムシロ科	1	
ホムロイソウ科	1	
オモダカ科	3	
トチカガミ科	3	
タケ科	3	
イネ科	99	
カヤツリグサ科	96	
サトイモ科	9	
ウキクサ科	1	
ホシクサ科	4	
ツユクサ科	4	
ミズアオイ科	1	

品名	数量	備考
イグサ科	10	
ビヤクブ科	1	
ユリ科	29	
ヒガンバナ科	2	
ヤマノイモ科	5	
アヤメ科	4	
シヨウガ科	2	
ラン科	20	
ドクダミ科	2	
コシヨウ科	1	
センリヨウ科	3	
ヤナギ科	5	
ヤマモモ科	1	
クルミ科	1	
ハンノキ科	2	
ブナ科	10	
ニレ科	5	
クワ科	8	
イラクサ科	18	
ヤマモガシ科	1	
ボロボロノキ科	1	
ビヤクダン科	1	
ヤドリギ科	1	
ウマノスズクサ科	2	
タデ科	32	
アカザ科	8	
ヒユ科	11	
ザクロソウ科	3	
スベリヒユ科	1	
ナデシコ科	14	
スイレン科	4	
キンポウゲ科	14	
アケビ科	4	
メギ科	1	
ツツラフジ科	3	
モクレン科	6	
クスノキ科	8	
ケシ科	4	
アブラナ科	17	
モウセンゴケ科	1	

品名	数量	備考
セリ科	20	
ミズキ科	3	
リョウブ科	1	
イチヤクソウ科	4	
ツツジ科	8	
ヤブコウジ科	5	
サクラソウ科	5	
カキノキ科	1	
ハイノキ科	7	
エゴノキ科	2	
モクセイ科	5	
フジウツギ科	2	
リンドウ科	8	
キョウチクトウ科	1	
カガイモ科	7	
ヒルガオ科	4	
ムラサキ科	5	
クマツヅラ科	5	
シソ科	38	
ナス科	8	
ゴマノハグサ科	23	
ゴマ科	1	
ハマウツボ科	2	

品名	数量	備考
タヌキモ科	6	
キツネノマゴ科	4	
ハエドクソウ科	2	
オオバコ科	1	
アカネ科	21	
スイガツラ科	11	
オミナエシ科	4	
マツムシソウ科	1	
ウリ科	3	
キキョウ科	8	
キク科	90	
希有シダ植物 井上康彦寄贈	42	

化石

品名	数量	備考
珪化木	2	多久市北多久町立山坑
シキシマバス化石	1	30cm×30×
第三紀二枚貝化石塊	1	10約20キロ 北方坑出土 30cm×20× 12約15キロ 伊万里市楠久 佐世保層

人文科学資料 844点（陶片を除く）

考古資料（410）

品名	数量	備考
尖頭器	39	先土器時代
土器片、石族、石斧等	10	縄文時代
土器（器台、埴、甕、甕等）		
石器（石包丁、石剣、石斧、石錘、紡錘車）	80	弥生時代
須恵器（高杯、埴、平瓶、提瓶）		
土師器（器台、埴、鉢形土器、高杯等）		
関行丸古墳出土品一括（方格規短鏡、変形文鏡、珠文鏡、三環鈴、鉄刀子、鉄留金具等）	242	古墳時代 方格四神鏡、方格渦文鏡、有鉤鉋形銅製品、
櫻馬場出土甕棺遺物一括	30	弥生時代後期
経筒（銅製経筒、須器外筒）	1	多久市山崎出土品一括 天治元年10月1日(1124)
経筒（銅製経筒、滑石製外筒）	1	大町町出土品一括、嘉保3.8.27（寄託 1995）
経筒（銅製経筒、仏像1）	4	脊振山出土、康治元年(1142)

歴史資料（160）

品名	数量	備考
絵本通宝誌	10	
山海名産絵図	5	寛政11年正月刊、高木
和漢三才図絵	6	遷喬堂梓
水々江城絵図	1	（軸）
天賜園64勝図詩 上、下	2	画帖
原城攻撃軍配置図	1	紙本着色
熊本城内図	1	＃
永代御江戸絵図	1	嘉永6年正月発行
大日本国順路明細記大成	1	嘉永3年再版、弘化3
錦 絵	1 卷	
鍋島光茂公よりの地行高書状	1	（軸）
鍋島勝茂公年譜	3	
鍋島直茂公年譜	2	
長崎出島地図	1	安永7年 （軸）
江藤新平口述書	1	
刀剣之図	7	
刀剣拓本	2 卷	
肥前忠吉任官状	6	
安田勝貞鎧具足	2 箱	
富田家文書	1	（軸）
写本（仏教）	7	大般若経3ほか
石柄鏡	1	
スペンセル銃	1	連発小銃

火繩銃	1	肥前住橋本新兵衛尉忠長作
先込銃	2	壬申1991番(伊万里県)壬申 763番
青銅剣	1	贈(桃氏の剣)
十手	1	贈
単眼顕微鏡	1	
琵琶(武富廉斉作)	2	大財聖堂で使用されたと伝えられる 贈・中国
搏佛	1	
佐賀城瓦	2	
梅窓剛の書跡	1	額(至誠如神)
古川松根、藤の絵	1	軸
水上七郎書跡	1	額(惟神五則、紀元2586年)
中村自彊齋書跡	1	額(興亜奉公)
武富時敏書跡	1	軸 謝老
草場佩川画跡	2	軸 松竹絵
山岡鉄舟書跡	1	
古賀精里書跡	3	軸・額
細井広沢書跡	6	軸
古賀穀堂書跡	1	軸、鳴鳩
古賀侗庵書跡	1	軸
古賀茶溪書跡	1	軸
鍋島閑叟書跡	3	軸、南山ほか、
江藤新平書跡	1	軸
大木喬任書跡	1	軸
小笠原長生書跡	1	額
島神七資料一括	29	明治戊辰役の従軍日記 肥州軍符、小旗等
名護屋城関係資料一括(寄託)	18	風呂桶1、大大盟1、小桶4、手桶4、柄杓2、角盟、湯桶1、遠眼鏡1、勝吹の馬印1、梨子地生の金蔭絵、鞍1、梨子地生の金蔭絵、鎧1足
肥前名護屋城絵図	1	屏風六曲一隻

美術工芸資料

1. 絵画(34)

品名	数量	備考
日本画 法隆寺金堂6号壁画模写	3副	大塚榛山作 紙本着色
＃ 魚 壁	1	藤田隆治作
銅版画、アダムとイブ2号	1	レンブラント作、1642(エッチング)
油彩 老婦人像 10号	1	百武 兼行作
＃ シンガポール3号	1	小代 為重作
＃ 小女(房州海岸にて)4号	1	＃
＃ テームス河畔 4号	1	＃
＃ 加茂川の新緑 6号	1	久米桂一郎作

品名	数量	備考
油彩 泊船 6号	1	久米桂一郎
〃 アトリエの裸婦12号	1	北島 浅一
〃 海 4号	1	〃
〃 裸婦 20号	1	〃
〃 〃 20号	1	〃
〃 〃 25号	1	〃
〃 少女 10号	1	〃
〃 少女 8号	1	山口 亮一
〃 読書する少女 3号	1	山口 亮一
バステル 花 20号	1	武藤 辰平作 (ルドン模写)
油彩 パリの裏町 8号	1	〃
〃 モレー風景 10号	1	〃
〃 静物 8号	1	松本 弘二
〃 あじさい 20号	〃	〃
〃 静物(りんご) 5号	1	甲斐 仁代
〃 川上風景 10号	1	御厨 純一
〃 風景 8号	1	山口 猛彦
〃 漁船 8号	1	〃
〃 村話 80号	1	石本秀雄 (菊花賞受賞作)
〃 舞台裏の女 30号	1	〃
〃 トレド風景 6号	1	納富 進
〃 小女 3号	1	村岡平蔵(光風特賞 受賞作)
〃 顔 6号	1	〃
〃 青北風 20号	1	内山 孝
2. 彫刻(3)		
道(樹脂)	1	中島 快彦
裸婦(石膏)	1	〃
太陽の園(陶彫)	1	古賀 忠雄
3. 書跡(30)		
春風秋雨十星霜	1	大坪 柁軒
寿	1	〃
書道要諦	1	〃
蝶緑青州(酒)	1	中林 梧竹
天	1	〃
有志者(額装)	1	副島 種臣
立誠(〃)	1	〃
書簡草稿	23枚	〃
4. 工芸		
(1) 陶、磁器(96)		
古唐津系		
絵唐津水指	1	江戸中期
餉流し釉水指	1	〃(藤の川内)

品名	数量	備考
船 德利	1	〃(〃)
絵唐津壺	1	〃(小峠)
松絵水甕	1	〃(弓野)
松絵鶴首德利	1	〃(弓野)
初期伊万里系		
染付草花文平皿	1	
染付唐草文德利	1	江戸初期、天狗谷
青磁茶碗	1	〃
染付唐草文碗	1	〃
染付德利	1	〃 弥源次窯
染付德利	2	〃
〃 油壺	5	〃
〃 丸碗	19	〃
柿右衛門系		
染付花鳥図德利	1	江戸中期
染付紫垣文台鉢	1	〃
彩絵粟鴉図小皿	1	〃
彩絵花蝶図輪花型探鉢	1	〃
乳白手彩絵花蝶八橋	1	〃
二方割文壺		
藩窯系		
色鍋島更紗文高台皿	2	〃
色鍋島地文唐花三方割中 向付	1	〃
鍋島青磁耳付花器	1	〃
鍋島染付青磁扇文高台皿	1	〃
鍋島染付藩窯絵図大皿	1	〃 染付
古伊万里系		
彩絵亀甲文角德利	〃	
錆釉牡丹唐獅子角瓶	1	〃
彩絵風俗図德利	1	〃
御所車風俗絵ひげ皿	1	〃
染錦花鳥文深針	1	〃
染錦唐児絵手付瓶	2	〃
染錦百合口花瓶	1	〃
染錦婦人像	1	〃
染錦美人桜閣図大皿	1	〃
青磁彫文深鉢	1	〃
錦手笹絵鳥図中皿	1	〃
染付日本国地図大皿	2	江戸末期
現代(14点)		
唐津叩き手壺	1	12代中里太郎右衛門
乳白手彩絵草花文蓋物	1	12代酒井田柿右衛門
乳白手彩絵花鳥文花瓶	1	12代酒井田柿右衛門
色鍋島更紗文八角鉢	1	12代今泉今右衛門
色鍋島製造工程1組	6	〃
釉裏紅牡丹絵額皿	1	松本 佩山
白磁堂手鈴蘭花器	1	〃
白磁浮彫草花文百合口花瓶	1	奥川忠右衛門
古伊万里様式図案資料 (138枚)	1箱	明治~大正

品名	数量	備考
外国資料 (19点)		
加彩唐備	2	(唐時代)
磁川窯白釉刻花蓮文鉢	1	(北宋)
康熙五彩花鳥文皿	1	
錦付高酒杯	1	
西欧・柿右衛門做製品	13	
宣徳染付菊唐草文鉢	1	明、宣徳手製 寄託
(2) 陶、磁器片 (1630)		
弥源次窯 初期伊万里系	250	碗、皿、井、徳、油壺等
掛谷窯 "	150	小皿類等
内田小峠窯 武雄北部系	20	碗皿等
黒牟田窯 "	20	土瓶、燭台、鉢等
焼峯窯 "	40	
内田大谷窯 "	25	
川古谷窯 "	5	
小山路窯 武雄南部系	460	
大草野窯 "	200	
藤ノ川内窯 松浦唐津系	140	
椎ノ峯窯 "	40	
高麗窯 多久唐津系	30	
藩窯 (大川内)	250	
(3) 金工 (4)		
槍、肥前国住人忠吉、南蛮鉄	1	土佐守 千本槍写槍
脇差、肥前国河内大掾藤原正広	1	拵付
鍛金、葡萄にリス像	1	銀地、石田英一
" 管公像	1	真鍮地、石田英一
(4) 染織 (3)		
鍋島更紗幔幕	1張	半兵衛更紗ともいわれる
鍋島更紗秘伝書	1巻	各種見本帽
鍋島更紗ひな形巻物	1巻	図説秘伝技法の解説
5、民俗資料 (50)		
飯台 (箱膳)	1	
カガー (弁当箱)	1	
大根おろし	2	木竹製、銅製
お好焼鍋	1	貝製
釜	1	
薬	1	
包丁	1	餅切り
草鞋	1	
蓑	1	
千杵	1	
歯	1	木製
臼	1	石製
栗てぼ	1	竹製

品名	数量	備考
栗剥き	1	竹製
手がわ	1	藁製
槌	1	藁工用 木製
織機	1	
槌	2	木製、脱穀用
槌	1	木製
糸車	2	"
かせかけ車	1	"
かせぐり	1	石台付、木製
精粉機	1	石製
吊りランブ	1	
台付ランブ	4	
矢立	1	
覗き目鏡	1	箱型
蓆音機	1	ラッパ付、ビクター製
カバン	1	竹製
天秤	3	
銭入れ	2	木製
消防ポンプ(牛津町新町)	1	木製、大正時代前後に使用
繩 (")	1	
消防ホース巻	1	
浮立面	1	木製安政年製
浮立の大鼓	1	紙製
武雄浮立絵巻	1	紙、淡彩
漁撈習俗絵巻	3巻	模写、紙、淡彩
炭鉱関係資料 (54)		
採炭用ヘルメット・防塵マスク、キャップランプ		古賀山炭鉱
ツルハシ		
発破器、発破器テスター等		日鉱立川炭鉱

昭和45年度

自然科学資料 1,573点

品名	数量	備考	受入別
岩石鉱物 (28)			
球状閃緑岩	1	多久市北多久町	購入
玄武岩、安山岩、流紋など	8	県内	採集
砂岩	4	北波多村、巖木町、相知町	採集
滑石	3	西彼杵郡西海町	採集
結晶質石灰岩	2	東松浦郡巖木町	"
石英(けい石)	3	佐賀郡富士町杉山	"
カリ長石	2	"	"
巨晶花こう岩とざくろ岩	1	佐賀郡富士町杉山	寄贈
巨晶花こう岩と緑柱石	1	"	"
石英	1	"	"
花こう岩(ナマコ石)	2	佐賀郡富士町関屋	"
(2)野鳥の巢(1)			
セッカの巢	1	45.9.23筑後川堤防	採集
(3)有明海魚貝類(250)			
ムツゴロウ、ハゼ、シヤコ、アリアケシラウオ、オオシヤミセンガイ	250	高木正人作製	購入
(4)昆虫標本(222)			
県内代表的鞘翅類(甲虫)	222	前原宏作製	購入
(5)植物標本(1,000)			
イヌガヤ科	1	佐賀植物友の会作製	購入
ヒノキ科	2	"	"
ガマ科	1	"	"
ミクリ科	1	"	"
ヒルムシロ科	2	"	"
アマモ科	1	"	"
ホムロイソウ科	1	"	"
オモダカ科	2	"	"
ドクカガミ科	2	"	"
タケ科	3	"	"
イネ科	72	"	"
カヤツリグサ科	106	"	"
サトイモ科	8	"	"
ウキクサ科	1	"	"
ホシクサ科	10	"	"
ミズアオイ科	1	"	"
イグサ科	4	"	"
ビヤクブ科	1	"	"

品名	数量	備考	受入別
ユリ科	18		購入
ヒガンバナ科	3		"
ヤマノイモ科	3		"
アヤメ科	6	エヒメアヤメ	"
ショウガ科	2		"
ラン科	17	クロカミラン	"
ドクダミ科	2		"
コショウ科	1		"
センリョウ科	2		"
ヤナギ科	5		"
ヤマモモ科	1		"
クルミ科	1		"
バンノキ科	2		"
ブナ科	10		"
ニレ科	3		"
クワ科	5		"
イラクサ科	10		"
ヤマモガシ科	1		"
ビヤクダン科	1		"
ヤドリキ科	2		"
タデ科	2		"
アカザ科	21		"
ヒユ科	8	シチメンソウ	"
ヤマゴボウ科	5		"
ザクロソウ科	1		"
スベリヒユ科	2		"
ナデシコ科	1		"
スイレン科	10		"
ヤマグルマ科	1		"
カツラ科	1		"
キンポウゲ科	1		"
アケビ科	13		"
メギ科	1		"
ツツラフジ科	2		"
モクレン科	3		"
クスノキ科	3		"
ケシ科	10		"
アブラナ科	6		"
モウセンゴケ科	12		"
ベンケイソウ科	2		"
ユキノシタ科	8		"
トベラ科	18		"
マンサク科	1		"
バラ科	1		"
マメ科	27		"
フウロソウ科	28		"
カタバミ科	2		"
ミカン科	1		"
ニガキ科	6		"
センダン科	1		"

品名	数量	備考	受入別	品名	数量	備考	受入別
トウダイグサ科	15		購入	ハマウツボ科	2		購入
アワゴケ科	1		"	イワタバコ科	1		"
ツゲ科	1		"	タヌキモ科	7		"
ウルシ科	3		"	キツネノマゴ科	4		"
モチノキ科	7		"	ハエドクソウ科	1		"
ニシキギ科	4		"	オオバコ科	3		"
ミツバウズキ科	2		"	アカネ科	28		"
カエデ科	7		"	スイカヅラ科	22		"
ムクロジ科	1		"	オミナエシ科	4		"
アワブキ科	2		"	マツムシソウ科	1		"
ツリブネソウ科	1		"	ウリ科	4		"
クロウメモドキ科	1		"	キキョウ科	11		"
ブドウ科	2		"	キク科	114		"
シナノキ科	3		"	(6)化石(65)			
アオイ科	1		"	シダの化石	19	中生代三疊紀	購入
ツバキ科	3		"	トクサの化石	1	"	"
オトギリソウ科	6		"	イチョウの化石	1	"	"
スミレ科	6		"	イチョウとナギの化石	1	"	"
キブシ科	1		"	微小動物化石塊	1	第四紀洪積世	"
ジンチョウゲ科	4		"	第三紀の二枚貝	1	グリシメリス	"
グミ科	3		"	パラフズリナ	1	研磨板	寄贈
ミソハギ科	2		"	メタセコイヤ、ブナ、			
ウリノキ科	1		"	ヤナギ、ハス、二枚貝	38	伊万里市立川鉦業所	寄贈
ノボタン科	1		"	巻貝、ウニなど			
アカバナ科	6		"	光鱗魚	1	中生代、白亜紀	寄贈
アリノトウグサ科	1		"	タイラノザウルス生態	1	中生代	譲与
ウコギ科	8		"	模型			
セリ科	17		"	(7)動物標本(4)			
ミズキ科	3		"	カプトガニ(生体乾燥)	3	伊万里市波多津海岸	寄贈
リョウブ科	1		"	アカウミガメ()	1	唐津市神集島採取	"
イチヤクソウ科	6		"	(8)模型(3)			
ツツジ科	10	サクラツツジ	"	佐賀県地図模型	1	25.000分の1	購入
ヤブコウジ科	5	カラタチバナ	"	佐賀市街地図	1	2.500分の1	"
サクラサウ科	8		"	唐津市街地図	1	2.500分の1	"
イソマツ科	1		"				
カキノキ科	3		"				
ハイノキ科	8		"				
エゴノキ科	1		"				
モクセイ科	7		"				
フジウツギ科	2		"				
リンドウ科	8		"				
キョウチクトウ科	2		"				
カガイモ科	10		"				
ヒルガオ科	5		"				
ムラサキ科	7		"				
クマツヅラ科	7		"				
シソ科	44		"				
ナス科	13		"				
ゴマノハグサ科	25		"				
ゴマ科	1		"				

考古資料

	品名	備考	寄贈等の別
↑ 先石器時代↓	鬼の鼻山出土石器 切立遺跡出土石器	石槍他 300点 ナイフ型石器、台形石器他 100点	寄贈 "
	白蛇山岩蔭出土遺物	土器、石器(先・縄文時代を含む) 1000点	" 寄託
↑	青森県出土縄文式土器	完形品 2個 他 3点	寄贈
	西有田町出土遺物	約30遺跡分、石器 1000点	寄託
縄文時代	盗人岩洞穴出土一括遺物	西有田町石器1000点 土器30点	移管
	伊古石遺跡出土一括遺物	西有田町石器他1500点 土器10点	"
↓	坂の下遺跡第一次調査一括遺物	土器 500点 石器 300点 織物30点 昭和42年度調査分	"
	坂の下遺跡第二次調査一括遺物	土器1000点 石器 400点 木器40点 織物50点 昭和45年度調査分	"
↑	佐賀市金立町権現原遺跡出土遺物	石器10点、土器 5点	"
	赤松海底遺跡出土一括遺物	鎮西町 石器10点	"
↓	伊勢山遺跡出土一括遺物	基山町、縄文時代 石器10点 土器10点	"
	大友弥生遺跡・予備調査一括遺物	呼子町カメ棺 9、 貝釧16、人骨 3 昭和43年度分	"
↑	大友弥生遺跡・第一調査一括遺物	呼子町カメ棺 3、貝釧 管玉人骨94、小玉 昭和45年度分	"
	山崎弥生遺跡出土一括遺物	神埼町 カメ棺 3、 勾玉 3、管玉 5、ガラス玉36、鉄戈	"
↓	樺島山弥生石棺出土一括遺物	北方町 内行花文鏡 素環頭刀子、勾玉、 管玉、神獸鏡	"
	東宮裾弥生カメ棺出土一括遺物	北方町 カメ棺 2、 巴形銅器、星形銅器 2、管玉14	"
↑	仁比山弥生石棺出土一括遺物	神埼町 做製鏡、 石釧 1	"
	柴尾橋弥生遺跡出土一括遺物	佐賀市 砥石、石庖丁 1、土錘 1、土器	"
↓	横田弥生遺跡出土一括遺物	東脊振村 鉄劍 1、 素環頭太刀 1、漢式鏡 1	"
	十三塚弥生石棺出土一括遺物	大和町 方格規矩鏡 1、管玉 1、鏡片 1	"
↑	山添弥生遺跡出土	唐津市 カメ棺 2	"
	切通カメ棺遺跡出土	上峰村 カメ棺 7	"

	品名	備考	寄贈等の別
↓	橘カメ棺遺跡出土	武雄市 カメ棺 2	"
	葉山尻支石墓出土	唐津市 カメ棺 (荒箱16)	"
↑	羽巢輪弥生遺跡出土遺物	大和町 カメ棺 2	"
	柚比弥生遺跡出土遺物	鳥栖市 カメ棺 2	"
↓	西分弥生遺跡出土遺物	三日月町カメ棺 1	"
	瀬戸口支石墓出土遺物	唐津市 カメ棺 1	"
↑	太田弥生遺跡出土遺物	鳥栖市 カメラ棺 1	"
	八子弥生カメ棺遺跡出土遺物	神埼町 カメ棺52 人骨34	"
↓	県内各地出土弥生遺物	銅劍 1、土器、石鏡 3、小玉、石劍 1、 石庖丁 4、石斧 7	"
	神辺古墳時代遺跡出土一括遺物	鳥栖市、環蓋、坏身 ツボ、提瓶、高坏 青磁、鉄鏡、刀子、 耳環、ガラス玉85、 軽石玉 4、管玉17、 水晶玉 2、ナツメ玉 1、人骨 6	"
↑	勇猛山古墳群出土一括遺物	北方町 耳環23、勾玉 7、管玉23、九玉 5、小玉 164、土玉 2、鉄刀 9、鉄劍 1 刀子 8、平根鐵21、 尖頭鐵21、鉄斧 3、 須恵器25、土師器 4 砥石 1	"
	永吉、伊勢山古墳時代遺跡出土一括遺物	鳥栖市、基山町 坏、埴、鉢、ツボ、 カメ、高坏完形 67、手捏土器 156、 紡錘車、土錘、砥石 4、擦石13、炭化米 炭化植物、滑石勾玉 2、滑石平玉2072、 有孔円板13、土鈴 1 土製鏡 1、土製丸玉 7、土製勾玉 2	"
↓	山浦古墳群出土遺物	鳥栖市 勾玉11、白 玉 316、管玉16、ガ ラス玉、耳環 3、刀 子18、鉄鏡 2、鉄劍 1、鉄刀 1、1、 錘車 2、鉄斧 1、そ の他、鉄器、須恵器 土師器	"
	東十郎古墳群出土一括遺物	鳥栖市 須恵器、土 師器 420、砥石、鉄 釘13、鉄鏡12、刀子 11、鉄斧 1、アテビ シ 1、タガネ 1、 鎌30、鉄 1、鉄鎌 2 2、刀装具 4、切子 玉 2、勾玉 3、管玉 7、丸玉35、小玉 132、銅釧 1	"

品名	備考	寄贈等の別	品名	数量	備考	受入別
天神尾古墳群出土一括遺物	神埼町 鋤先1、耳環2、管玉2、ガラス小玉8	移管	銅製雲板	1		寄託
弁財天古墳出土一括遺物	小城町 鉄鏡1、刀子1、耳環1、玉2馬具	"	沙弥尊光寺領奇進状他	6		"
県内各地古墳出土遺物	須忠器、土師器、人骨、埴輪、鉄刀、鉄鎌、鉄斧、馬具、鉄鎌、短甲、玉類97耳環1、素環頭太刀1、銅鏡3、枕石2	"	鰐口	1		"
太田古墳壁画模写図、復原図	後室奥壁2枚、後室入口袖石2枚	購入	青銅製祭器	8		"
太田古墳側壁模写図、復原図	中室側壁2枚	寄贈	金銅製文箱 他	2		"
太田古墳内部模型		購入	朱印状 他	49		"
太田古墳全形模型		"	朝鮮国礼曹の論告文	2	軸装	購入
三年山・茶園原遺跡出土石器	石槍他 100点	寄託	肥前鐘	1		寄託
坂の下遺跡出土のヒモ	昭和43年3月発見	"	肥前狗犬	2		"
銅戈 2口	出土地不明 県重美	"	観世音菩薩像	1		寄託
熊本山舟形石棺及び一括遺物	佐賀市久保泉町 県重文	"	肥前板碑	5		"
小隈古墳出土一括遺物	内行花文鏡、玉類	"	関東板碑	1		寄託
永池第一号墳細線核文様石材		"	五輪塔	1		"
竜王崎古墳群出土一括遺物		"	桧垣塔	1		"
山王山古墳出土一括遺物		"	宝篋印塔	1		購入
西原B号墳出土一括遺物		"	一石 "	1		"
			六地藏	1		"
			名護屋城陣跡旗竿石	1		寄託
			佐嘉城記石	1		寄贈
			東背振村出土経筒	1	一部欠損	
			2、藩政時代			
			江戸時代以降			
			1.画像墨跡	(66)		
			鍋島直茂画像	1	(軸)	寄託
			鍋島勝茂画像	1	(軸)	"
			鍋島直茂・勝茂の書状ほか	18	鍋島直茂より9代藩主斉直までの書・画肖像など軸物	"
			鍋島直正の画像	3	(軸)	"
			鍋島直正の書跡など	11	(軸) 直正筆9	"
			鍋島直正の書跡	7	(軸)	"
			鍋島直正生立一代記絵	1組	17枚	"
			古川松根の書跡	1	(軸)	"
			古川松根の画	6	(軸)	"
			古川松根純忠碑文	1	(軸) 拓本	"
			2.藩政資料	(89)		
			有馬戦戦死者名	1	多久美守関係、寛永17年	"
			宗門并人御改帳	2	天保6年神埼郡	"
			宗門并人御改村々目安帳	1	嘉永3年神埼郡	"
			義祭同盟連判状	1	嘉永3年	"
			精煉方銘入徳利	1		"
			精煉方使用真空ポンプ	1		"
			精煉方製ガラス器	6	コップ1、金魚鉢1台付皿1、広口ビン2	"
			鉄製野砲模型	1		"

歴史資料

品名	数量	備考	受入別
基肄城跡出土瓦	15		移管
国分寺跡出土瓦	2		寄託
国分寺瓦窯跡出土瓦	20		移管
大願寺跡出土瓦	2		寄託
蔵骨器	3		移管
"	4		寄託
晴気庵寺跡出土瓦	1		"
木造帝釈天立像	1		"
木造 阿弥陀如来坐像	1		"
御成敗式目	1		"
水上懸仏	1		"
木造 円鑑禅師坐像	1		"
" 草太天小立像	1		"
" 扁額	1		"

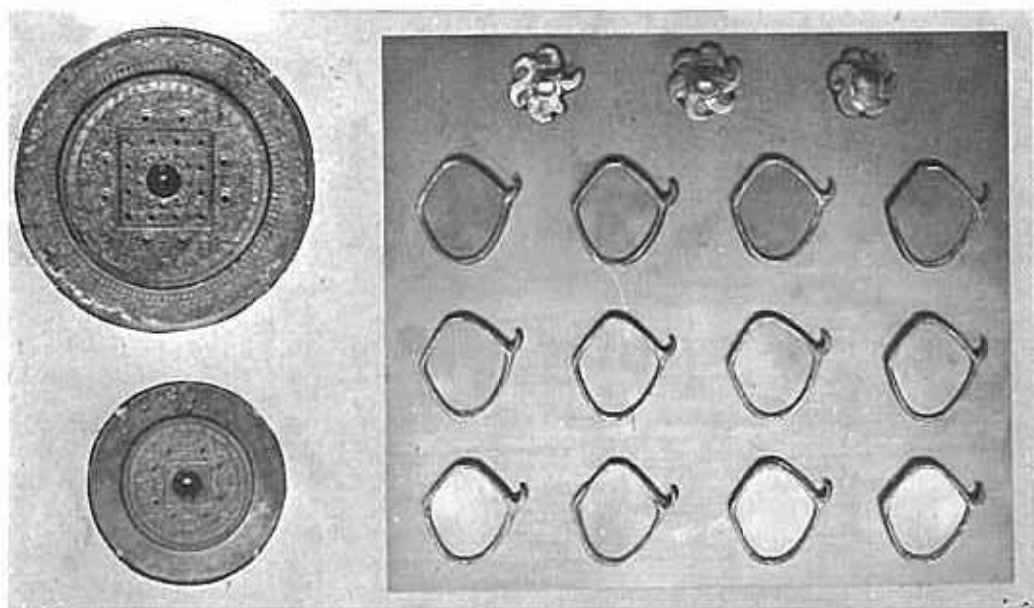
品名	数量	備考	受入別	品名	数量	備考	受入別
江副金兵衛純忠の図	1	(軸)	寄託	古賀穀堂の画像	1	(軸)	寄託
御城下絵図	1	(軸) 正保10年	"	古賀穀堂の書跡	1	(軸)	"
長崎港警備図	2	(軸)	"	古賀穀堂の墓碑文	1	(軸) 拓本	"
(正保4年)				古賀侗菴の書跡	2	(軸)	"
同 (文化6年)	1	(軸)	"	古賀侗菴の画像	1	(軸)	"
同 (弘化3年)	1	(軸)	"	草場佩川の詩画	2	(軸)	"
長崎築壘鎮海工事図	1	(軸)	"	草場佩川、圀南ら合作詩画	2	(軸)	"
長崎海軍伝習所図	2	(軸)	"	武富圀南の書簡	1	(巻物)	"
品川砲台巡視図	2	(軸1、額1)	"	武富圀南「古梅図画賛」	1	(軸)	寄贈
佐賀海軍基地三重津港図	2	(軸1、額1)	"	秀島鼓溪資料	46	鼓溪割記、積慶録、農桑道利など書籍46冊	寄託
安政時代の長崎港図	1	(軸)	"	正司考祺資料	21	家職要道など書籍19冊	"
長崎港佐賀藩砲台の図	2	(軸)	"	実語教訓書など手習本	12	嘉永7年、安政2年	"
築地銃砲製造所図	2	(軸1、額1)	"	小倉騷動記など読本写本	22		"
多布施大砲製造所図	2	(軸)	"	天明事記など藩主の年譜類	39	秀島成忠氏写し	"
精煉方図	2	(軸1、額1)	"	長崎御番先縦録など書籍	27	秀島成忠氏写し、長崎警備関係	"
種痘図	2	(軸)	"	佐賀藩海軍史など書籍	9	佐賀藩軍事関係	"
忠宣公蘭艦乗込図	2	(巻物1、折本1)	"	橋園遺集など書籍	18		"
白帆注進録図	1	(折本)	"	5. 工芸資料	(9)		
異国船風俗見取図	2	(巻物1、折本1)	"	黒地源氏模様五段重	1	漆器	"
紅毛使節行列図	2	(巻物1、折本1)	"	蒔絵飯櫃	1	漆器	"
御役所及び使節応接之図	1	(巻物)	"	定紋付六寸三段重	1	漆器	"
凌風丸の図	1	(軸)	"	梨地定紋化粧箱	1	漆器	"
肥前国産物図考	8	(折本) 天明4年	県立図書館より移管	定紋ちらし歌流多箱	1	漆器	"
村州藩札	25		寄託	金高蒔絵文箱	1	漆器	"
兩替文書など	6		"	朱地高脚膳	3	漆器 おわん付	"
伊勢大神宮講舎帳など	3	天保15、嘉永2、文久3	"	6. 陶芸資料	(10)		
3. 兵法・武具資料	(29)			陶磁器及び陶磁器片	多数	有田猿川古窯跡出土	移管
柳生流兵法秘伝書	一揃	全4冊 寛永9年 明暦3年	"	木 札	3	釜焼札など	寄託
高麗流八条家馬書	一揃	全6冊 享和元年	"	乳 鉢	1	絵薬用	"
轉殺流捕手目録など	5	(巻物) 弘化3年	"	練 棒	2	"	"
北山揚心流捕手目録など	2	(巻物) 元治2年	"	鍋島焼絵手本	2	古川松根	"
棒術秘伝書	1	(巻物) 元禄8年	"	外国貿易の許可証	1		"
袖がらみ	1		"	木 札	1	文久3年、陶芸商札	"
三又槍	1		"	II、明治以降			
青竜刀	1		"	1. 画像、墨跡	(27)		
鉾型長刀	1		"	鍋島直大肖像油絵など	3	鍋島直大2	寄託
大筒	1		"	鍋島直大の書跡	1	(軸)	"
先込銃	2		"	鍋島直映の書跡	1	(軸)	"
銃弾、弾袋、鑑札	一式		"	江藤新平の書跡	1	(軸)	"
4. 学問、教育資料				江藤新平らの書簡	2	(軸)	"
聖像五体	5	佐賀市重文3	"	鳥義勇の書跡	1	(軸)	"
天縦殿額	1	佐賀市重文	"	鳥義勇の和歌	1	(軸)	"
先聖先賢画像	1	(軸)	"				
弘道館校舎図	1	(軸)	"				
古賀精里の画像	1	(軸)	"				
古賀精里の書跡	4	(軸)	"				

品名	数量	備考	受入別	品名	数量	備考	受入別
鎌田景弼の書跡	1	(軸)	寄託	商法必讀など	7	明治6年～明治14年	寄託
佐野党民の書跡	3	(額1、軸2)	"	初学須知など理科教本	12		"
大木喬任の書跡	2	(軸)	"	数学教授書	3		"
副島種臣の書跡	5	(軸)	"	養生法など	3		"
枝吉神陽、副島種臣の書跡	1	(軸)	"	西洋事情初篇など	27		"
大隈重信画像	1	(軸)	"				
大隈重信にあてられた書簡	2	(巻物)	"	民俗資料	507点		
中村梧竹の書跡	2	(軸)	"				
2.法政資料	(49)			1.有明海漁撈用具	(293)	157種 293点	社会教育課より移管
上野彰義隊攻撃図	1	(軸)	"	素板など干潟漁撈用具	66	33種	"
維新風俗変移図	1	(軸)	"	まち網など網	23	15種	"
肉弾三勇士図	1	(軸)	"	浮竹など網付属品	40	8種	"
北海道開拓勅書	1	(額)	"	三つ寄りうちなど網用具	18	6種	"
朝倉弾蔵資料	6	遺書、任命状など	"	せっかおとしなど養殖具の採集用具	33	24種	"
隊員名簿など	7	明治初年の兵編成関係	"	はぜのべなわなど枕箱など舟道具	22	14種	"
明治10年戦役記録	1		"	角舟など運搬販売用具	31	25種	"
田代村戸籍簿など	3		"	具	9	8種	"
徴兵事務条例など	5	明治17～18年	"	鰻いけすなど保存、加工用具	25	15種	"
地番記入村地図	5	鳥栖地方	"	どんざなど衣服類	9	6種	"
鹿鳴館時代の衣裳	一式	14点 帽子3	"	だんべーなど	17	3種	"
大隈重信との記念写真	1	(額) 明治30年	寄贈	2.小川島捕鯨用具関係	(51)	30種51点	購入
3.財政資料	(58)			捕鯨砲	1		"
地券	16	明治8年1、明治12年1、明治13年12、明治15年2	寄託	もり	2		"
頼母敷講帳	2	明治2年、明治9年	"	よろず	1		"
正金御上納通帳など	5	明治元年～明21年、寄附帳など	"	火薬つめ	1		"
現段別野取帳など取立帳及び諸届	21	田代町、明治13年～明治17年	"	薬莢	2		"
樋屋関係願書及び借用證など	12	安政4年～明治17年	"	薬莢しぼり付押出棒	2		"
大福帳	2	明治41年～43年	"	ばっかんしめ	1		"
4.教育資料				とっふう	1		"
中島学区公立中島小学校校札	1	長崎県時代	寄託	もり綱	1		"
明治初期卒業證書など	10	明治8年～明治18年	"	引綱	1		"
金武良哲製顕微鏡	1		"	でげんばり付しゃこ	1		"
往診用薬籠	1		"	砲身覆	1		"
木版 病家の心得	1		"	もり綱覆	1		"
孝経餘師など漢籍本	28	明治9年～明治18年	"	砲身掃除棒	1		"
国史略など主に歴史関係書籍	17	明治9年～明治23年	"	伝声管	1		"
勤善訓堂など修身教本	14	明治7年～明治39年	"	みつまた	1		"
小学読本など読本	8	明治7年～明治8年	"	じゃんす	2		"
輿地誌略など地理教本	17	明治7年～明治12年	"	ろ	1		"
内国史略など歴史教本	6	明治7年～明治12年	"	かぎ	4		"
				手かぎ	1		"
				小骨切り	1		"
				大切包丁	2		"
				大切包丁の刃	1		"
				はらい	2		"
				砥石台	1		"

品名	数量	備考	受入別	品名	数量	備考	受入別
砥石台付砥石入れ	1		購入	水彩 ランプ	1	青木 繁	寄託
旗	1		"	" 男の像	1	"	"
どんざ	10		"	油彩 神話 4号	1	"	"
いるかもり	3		"	" 夕焼けの海	1	"	"
薬 医	2		"	" 10号			
台座付 鴨猟銃	1		"	油彩 菊 10号	1	古賀 春江	"
火薬づめ棒	1		"	中国二美人図	1	壁画部分	"
鉛散弾製作器	1		"	油彩 マンドリンを	1	百武 兼行	"
3.製薬・売薬資料	(77)			持つ少女 60号			
薬原料	25	23種	寄贈	" 風景 25号	1	"	"
薬調合帳	3	天保2天保15弘化4	"	" 竜王峠 80号	1	納富 進	購入
さ一切	4	片手用2、両方用2	"	" 裸婦 12号	1	藤島 武二	"
袋一折	9		"	" 花野 30号	1	岡田三郎助	寄託
絹 篩	1	元治元年	"	" 緑の庭 100号	1	山口 亮一	"
乳鉢	2		"	" 白バラ 50号	1	"	"
練棒	1		"	" パリーの踊子	1	北島 浅一	"
薬袋	5		"	(2)陶磁器 (15)			
タオル	1	家号入り	"	彩絵牡丹唐獅子文割	3	11代今泉今右衛門	寄贈
薬剤	2		"	縁鉢			
薬剤函	1		"	" 市松文変型鉢	3	"	"
矢立	3	薬剤調合用	"	磁州窯白釉黒花花瓶	1		寄託
天秤	1		寄託	銹釉染付兔文台皿	1		寄贈
薬版木	6		"	古九谷色絵素地陶片	(7)		"
薬剤入袋	11		"	猿川窯跡出土品一括	130箱	有田町、猿川古窯跡 発掘	発掘
薬剤調合帳	1		"	(3)書跡 (4)			
通行証	1		"	中林梧竹書	2	六曲一双屏風	購入
4.その他	(86)			西川春洞書	1	二曲一隻 "	寄託
炭鉾関係資料	29	立川炭鉾関係7種	寄贈	副島種臣書	1	議事堂 (額装)	"
角樽など酒器関係	5		"				
青年倶楽部看板など	19		社会教育課 より移管				
罎 皿	6		寄託				
印章	5		"				
書状箱	1		"				
財布	4		"				
皮袋	1		"				
木製1分銀計算器	1		"				
手鏡	7		"				
矢立	2		"				
矢立	3		寄贈				
古式写真器	3		寄託				
手織布	1		社会教育課 より移管				
美術、工芸資料	36点	(陶片を除く)					
(1)絵画 (16)							
油彩 伊太利風景	1	百武 兼行	購入				
12号							
絹本着色風景画	1	司馬 江漢	寄贈				
(額装)							
油彩 ばら 約1号	1	岡田三郎助	"				

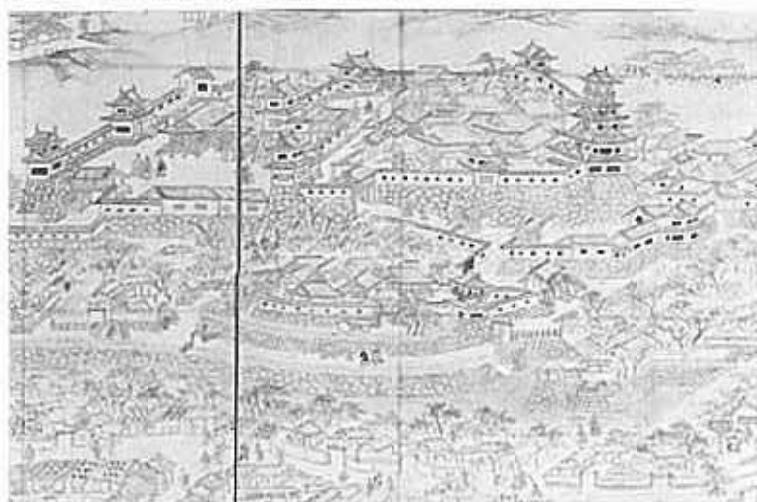


約4千年前のカシの実より発芽したアラガシの幼木

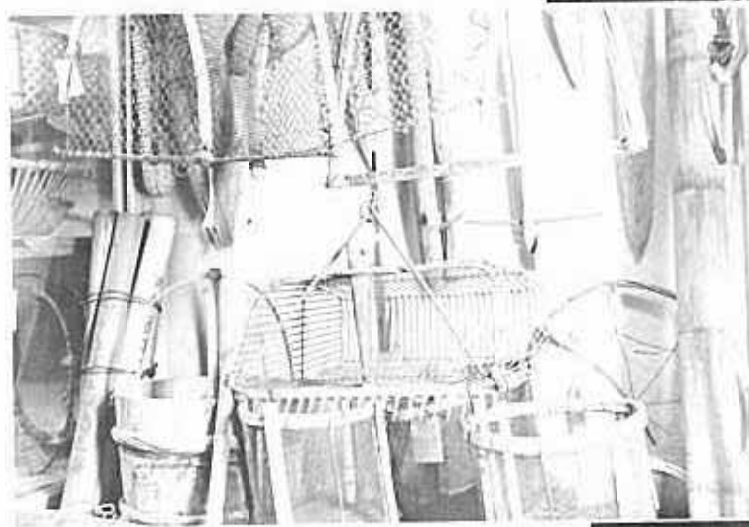


重要文化財・肥前国唐津市桜馬場出土甕棺遺物

肥前名護屋城図屏風



百武兼行作（マンドリンをもつ少女）



重要民俗資料・有明海の魚撈具



重要文化財・田鑑禪師座像



文化庁今日出海長官来館



鍋島直泰氏夫妻来館



駐日オーストラリア大使ゴードン・ブリース氏夫妻来館



夫妻来館
駐日ニュージーランド大使R・H・ウニード氏



来館
西ドイツ・ケルン美術館ディトリッヒ女史



インド地理学者R・L・シン氏
来館
広島大学教授米倉二郎氏

観覧者の声

1. 桃山江戸美術名作展について

桃山江戸美術名作展の会期中、10月23日から25日までの3日間の入観者に対しアンケートを実施した。協力者は1,090人で男512人、女579人であった。その結果は次のとおりである。

博物館の運営に関する意識調査結果

調査項目	博物館をどのようにして知りましたか					何人できましたか							
	新聞	テレビ	ラジオ	ポスター	学校	計	一人	二人	三人	四人	五人以上	計	
比率	34.9	13.5	3.3	9.4	38.9	100	16.1	28.2	22.2	21.0	12.3	4	100

調査項目	主として何を見にきましたか					観覧しての感想					
	絵画	漆芸	染織	陶芸	刀剣	計	満足	ほぼ満足	不満足	理解できない	計
比率	46.9	8.8	11.3	16.0	17.0	100	30.0	52.5	7.9	7.9	100

2. 常設展について

常設展に対する観覧者の意識調査を試みたが、その結果は別表のとおりでなお、この調査は、期間を45年12月10日から1週間とし、調査方法は、観覧者が任意に備付用紙に記入することとした。

常設展に関する意識調査結果
(45.12.10~16)

1. 常設展をどのようにして知りましたか。

新聞 ラジオ テレビ 学校 その他
13 4 3 5 9

2. 観覧しての感想

展示室	展示内容	展示方法
1号室 自然科学	①充実している 14人 ②ほぼ充実している19 ③充実していない 1	①よく理解できる6人 ②大体理解できる 22 ③理解できない 6
2号室 考古	(以下上欄と同じ) ① _____ 9 ② _____ 21 ③ _____ 4	(以下上欄と同じ) ① _____ 5 ② _____ 18 ③ _____ 11
3号室 歴史	① _____ 15 ② _____ 17 ③ _____ 2	① _____ 9 ② _____ 20 ③ _____ 5
大展示室 美術工芸	① _____ 14 ② _____ 19 ③ _____ 1	① _____ 8 ② _____ 17 ③ _____ 9

3. 化石展に関する意識調査

(2月27日(土)~28日(日))

- ①陳列されている説明パネルの内容について
理解できた 大体理解できた わからない
⑭ ⑯ ⑰
- ②陳列資料について
理解できた 大体理解できた わからない
⑱ ⑲ ⑳
- ③化石展を観覧して
非常に勉強になった 勉強になった わからない
㉑ ㉒ ㉓
- ④化石展で興味があったものはなんですか
恐龍 ㉔ 貝類 ㉕
古生代の三葉虫 ㉖ シダ類 ㉗
アンモナイト ㉘ 魚の化石 ㉙
海中動物の化石 ㉚ 地質年表 ㉛
ナンマン象の牙 ㉜
- ⑤今後開催する展覧会にたいする希望
人間の祖先の展示 ㉝ 人類使用道具 ㉞
陶器、美術の展示 ㉟ 恐龍を多く ㊱
空想の未来 ㊲ 古代文化 ㊳
古代遺跡 ㊴ 郷土及び外国の歴史 ㊵
絵画 ㊶ 産業関係 ㊷

以上、各展示会ごとに入観者に対しアンケートを実施したが、今後博物館に対する希望として、次のような意見がなされた。

- 講演会をたびたびしてほしい。
- 昔の生活様式を展示してほしい。
- 色々な展示をしてほしい。
- 説明を詳しく多くのせてほしい。
- 入場料をやすくしてほしい。

○佐賀県の特徴を表わす常時の展示をのぞむ。
 ○いつでも立寄れるオアシスとなしてほしい。
 ○国際的なものを開催してほしい。
 ○説明書掲示場所が暗い。
 ○陶磁器展を開催してほしい。
 となっており、広報宣伝の方法についても、さらに研究しなければならないと思っている。
 またこの調査結果は、観覧者の動向を知るには、貴重な資料となり、今後の運営に役立たせていく予定である。

博物館日誌（主な来訪者）

月日	来館者	用務
4. 7	広島大学教授 米倉 二郎氏	資料、用務
16	宮崎県立博物館副館長 外山恭太郎氏	博物館建設について調査
24	明治大学教授 杉原 莊介氏	資料用務
5. 1	徳川黎明会専務 徳川義宣氏夫妻	博物館建設現場視察
6	住友建設社長及び海外経済協力基金柳田綾哉	"
9	九州大学文学部教授 谷口 鉄雄氏	特別展々示計画指導
6. 2	鍋島直泰氏	博物館建設現場視察
11	福岡市助役 柳原弥之助氏ほか	"
22	河村龍夫氏 高岡建設KK社長	"
	見泉新氏 唐津商工会議所会頭竹尾秀己氏	"
	慶応大学教授 江坂 輝弥氏	資料用務
23	九州大学教授 鏡山 猛氏	"
7. 8	宮崎県立博物館副館長 外山恭太郎氏	施設調査
	文化庁、文化普及課長補佐 大谷 正明氏	"
9	文化庁、文化財保護部長 内山 正氏	"
	大分県芸術文化振興会議会長 米田 貞一氏ほか	"

月日	来館者	用務
7. 12	青森県知事 竹内俊吉氏 角田総務部長ほか	"
18	九州地方建設局営繕部長	"
8. 19	東京国立文化財研究所 登石 建三氏	館内温湿度 化学作用調査
20		
22	九州大学助教授 岡崎 敬氏	資料用務
29	静岡大学教授 内藤 晃氏	"
9. 1	イズミコンクリート工業 社長 宮脇 晴美氏	施設調査
	住友建設株式会社九州支 店長 田中 国朗氏	"
2	慶応大学江坂研究室 岡 島 氏	資料用務
24	東京国立文化財研究所 登石 建三氏	塵埃、浄遊測定 調査
28	慶応大学教授 江坂 輝弥氏	資料用務
10. 8	高知大学講師 島田 豊寿氏	"
10. 11	東京国立博物館美術課長 千沢 禎治氏	
	" 工芸課漆 工室長 荒川 浩和氏	
	" " 力 剣室 小笠原 信夫氏	特別展（江戸、 桃山）陳列指導
	京都国立博物館美術室長 武田恒夫氏	
10. 13	文化庁、文化財保護部長 内山 正氏	開館式出席
	河村 龍夫氏	資料寄贈
10. 19	文化庁、文化財調査官 榎本由喜雄氏	施設調査 開館記念展観覧
	人事院、事務総長 増子 正宏氏	"
10. 22	九州、沖縄市長会	"
10. 25	福岡県教育庁、文化課長 杉原 信彦氏	"
10. 26	東京都板橋区長 加部明三郎氏	"
10. 28	芸大名誉教授 日下 八光氏	資料寄贈 開館記念展観覧
29	文部省大臣官房 犬丸総務課長ほか	"

月日	来館者	用務
10. 31	文化庁、文化普及課長 土生 武則氏	資料寄贈 開館記念展観覧
11. 3	小倉 遊亀氏 大福唯桂子氏	"
11. 4	東京国立博物館工芸課長 北 村 氏	特別展（江戸、 桃山）撤去指導
	" 力剣室 小笠原信夫氏	
	" 絵画室 小林 忠氏	
	京都国立博物館美術室 木下 政雄氏	
	五島美術館 宇戸 清治氏	
11. 6	大和文華館学芸部課長 衛藤 駿氏	施設調査
11. 12	日本学校給食会常務理事 江上 邦治氏	"
11. 16	鍋島直紹氏夫妻	施設調査および 県展観覧
11. 19	河村龍夫氏	資料用務
	熊本郵政局長 船津 茂氏	施設調査および 県展観覧
11. 20	福岡県副知事 三宅 芳郎氏	"
	" 教育次長 森田実氏ほか	"
11. 23	駐日ニュージーランド大使 R・H・ウェード氏夫妻	"
11. 24	長崎県立美術博物館長 松尾 哲男氏	"
11. 25	日本国際協会理事 坂田二郎氏ほか	"
11. 27	慶応大学 江坂輝弥氏	資料調査
11. 28	九州芸術工科大学教授 香山寿夫氏	"
11. 29	京都市文化観光局次長 高 橋 氏	施設調査、県展 観覧
	" 美術館主査 山内又四郎氏	"
	日本開発銀行総裁 平 田 氏	"
	大阪芸術大学学長 塚本 英世氏	"
12. 3	オーストラリア大使館参	施設見学、県展

月日	来館者	用務
	事官	観覧
12. 4	長崎県立美術館長 松尾 哲男氏	施設調査
12. 11	日本美術研究所 坂本 弘道氏	"
12. 13	奈良国立博物館長 蔵田 蔵氏	"
12. 14	鍋島直泰氏	資料用務
12. 21	日本小型自動車振興会副 会長 福島 貞雄氏	施設見学、常設 展観覧
12. 22	文化財保護専門委員 神奈川大学教授 堀口 捨己氏	"
	東京大学講師 早川 正夫氏	"
46年		
1. 11	江田島青年の家所長	"
1. 13	国立中央青年の家所長 坂井 隆治氏	"
1. 14	東京大学名誉教授 福田 仁志氏	"
1. 16	福岡県文化会館長 瓜生 二成氏	"
1. 21	鍋島直泰氏ほか	"
1. 22	九州芸術工科大学環境設 計学科教授 新田伸之氏ほか	施設調査
1. 28	横浜国立大学 山田 勉氏	資料調査、常設 展観覧
1. 30	慶応大学教授 江坂 輝弥氏	"
2. 2	チェコスロバキア ヤロスラブ・パリンカ氏	施設調査、資料 研究
2. 5	徳島県立博物館長 林 利秋氏	施設調査
2. 12	西ドイツ、ケルン美術館 ディトリッヒ女史	"
2. 17	国立科学博物館古生物第 一研究室長 浅間一男氏	化石展資料陳列 指導
	印度ベナレス大学 R・L・シン氏	施設調査、資料 研究
	広島大学教授 米倉 二郎氏	"
2. 18	河村龍夫氏	資料用務
2. 19	九州産業大学教授有沢氏	施設調査

月 日	来 館 者	用 務
2. 23	徳島県教育委員会内藤委員長ほか6名	施設調査
2. 25	八王寺博物館長 井上郷太郎氏	資料用務
3. 4	国立科学博物館地学研究部長 尾崎 博氏	化石展講演
3. 9	西日本石油開発㈱社長 寺尾一郎氏ほか	施設調査
3. 10	滋賀県立琵琶湖文化館長 今宮一三氏ほか	"
3. 11	河村龍夫氏	資料用務
3. 12	駐日オーストラリア大使 ゴードン・フリース氏夫妻	施設調査、化石 展観覧
	京都大学名誉教授 梅原末治氏ほか	"

月 日	来 館 者	用 務
3. 14	国立科学博物館事業課長 手塚 映男氏	"
3. 15	河村龍夫氏	資料寄贈
	住友重機械工業株式会社 大阪支社長 糟谷正勝氏	施設調査
3. 17	鹿児島市立美術館次長 三ッ石和友氏	"
18	文化庁長官 今日出海氏ほか	施設調査、化石 展観覧
	鍋島直紹氏ほか	"
3. 24	佐世保市文化科学館長 水野 覚氏	"
3. 25	九州大学教授 松本 達郎氏	化石展観覧

昭和46年度の事業計画（予定）

企 画 展			常 設 展	
展 覧 会 名	会 期	会 場	会 期	会 場
シルクロード展 主催 佐賀新聞社	4月25日～5月8日	大、中展示室	3月30日 ↓ 9月5日	1、2、3号展示室 大展示室（4月22日か ら5月10日までを除く）
野 鳥 展	5月20日～ 30日	中展示室		
坂ノ下縄文遺跡展	7月20日～8月31日	中展示室		
日本古美術展 共催 東京国立博物館	9月11日～10月3日	1、2、3号 展示室	12月4日～12月26日 47年	1、2、3号大展示室
理科作品展 共催 佐賀県理科教育振興会	9月20日～ 30日	大、中展示室	1月5日～1月16日	
画聖鉄斎名作展 共催 日本経済新聞社	10月7日～ 22日	1、2、3号 展示室	2月4日～3月31日	1、2、3号大展示室
第21回県 展 共催 佐賀県教育委員会	10月30日～11月7日	全 館		
明治、大正、昭和三代美術 名作展 共催 文化庁	11月15日～ 28日	1、2、3号 展示室		
日本美術院展 共催 佐賀県教育委員会	47年 1月21日～ 30日	1、2、3号 展示室		

佐賀県立博物館年報 第1号

発行年月日 昭和46年6月1日

編集発行 佐賀市城内一丁目15-23
佐賀県立博物館

印刷 佐賀印刷社

SAGA PREFECTURAL MUSEUM
15-23 JONAI SAGA CITY JAPAN

佐賀県立博物館

佐賀市城内一丁目15-23 〒840

佐賀県立博物館